マニュアルの使いかた

安心してお使いいただくために

- パソコンをお取り扱いいただくための注意事項
  ご使用前に必ずお読みください。

セットアップガイド

- パソコンの準備
- Windowsのセットアップ
- 電源の切りかた
- Q&A集（電源が入らないとき）
- リカバリー（再セットアップ）
- 廃棄／譲渡

など

取扱説明書

- 電源の入れかた
- 各部の名前
- メモリの取り付け／取りはずし
- バッテリーパックの交換
- システム環境の変更

など

オンラインマニュアル（本書）

Windowsが起動しているときにパソコンの画面上で見るマニュアルです。

- パソコンの基本操作
- ネットワーク機能
- 周辺機器の接続
- バッテリーで使う方法
- システム環境の変更
- パソコンの動作がおかしいとき／Q&A集

など

リリース情報

- 本製品を使用するうえでの注意事項など
  必ずお読みください。

参照 「はじめに- 7 リリース情報について」

もくじ

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、付属の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。
必ずお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。
本書は、次の決まりに従って書かれています。

1 記号の意味

記号	意味
⚠危 険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
⚠警 告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことが想定されること”を示します。
⚠注 意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊2）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊3）の発生が想定されること”を示します。
お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っていると便利な内容を示します。
役立つ操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
参照	このマニュアルやほかのマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合…「　」 ほかのマニュアルへの参照の場合…『　』

＊1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

＊2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。

＊3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

2 用語について

本書では、次のように定義します。

システム

特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

WindowsまたはWindows 7

特に記載がない場合は、Windows® 7 Starterを示します。

UX/2＊シリーズ

dynabookシリーズで、モデル名が「UX/2＊」で始まるモデルを示します。

UX/1＊シリーズ

dynabookシリーズで、モデル名が「UX/1＊」で始まるモデルを示します。

ご購入のモデルの仕様については、『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

3 記載について

- 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「＊＊＊＊モデルの場合」や「＊＊＊＊シリーズのみ」などのように注記します。
- インターネット接続については、ブロードバンド接続を前提に説明しています。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは内蔵ハードディスクからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。
- 本書では、コントロールパネルの操作方法については、表示方法を「カテゴリ」に設定していることを前提に説明しています。画面右上の［表示方法］が「大きいアイコン」または、「小さいアイコン」になっている場合は、「カテゴリ」に切り替えてから操作説明を確認してください。
- 本書は、語尾をのばすカタカナ語の表記において、語尾に長音（ー）を適用しています。
画面の表示と異なる場合がありますが、読み換えてご使用ください。

4 Trademarks

- Microsoft、Windows、Windows Live、Windows Media、Aero、Excel、MSN、Outlook、SkyDriveは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- Intel、インテルは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標、または登録商標です。
- ConfigFreeは、株式会社東芝の商標です。
- SDロゴは商標です。（SD）
- SDHCロゴは商標です。（SDHC）
- Fast Ethernet、Ethernetは富士ゼロックス株式会社の商標または登録商標です。
- TRENDMICRO、ウイルスバスターはトレンドマイクロ株式会社の登録商標です。
- WiMAXはWiMAX Forumの商標です。

本書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

5 プロセッサ（CPU）に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ（CPU）の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- ACアダプターを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- 複雑な造形に使用するソフト（例えば、運用に高性能コンピューターが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
- 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
  目安として、標高1,000メートル（3,280フィート）以上をお考えください。
- 目安として、気温5～30℃（高所の場合25℃）の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。
また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

このほかの使用制限事項につきましては各種説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝PCあんしんサポートにお問い合わせください。

6 著作権について

音楽、映像、コンピューター・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

7 リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

① ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［はじめに］→［リリース情報］をクリックする

8 お願い

- 本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- Windows 7 Starter搭載のモデルでは、Windows 7 Home Premiumに搭載の一部の機能（Windows Aeroインターフェース、リモートメディアストリーミング、拡張表示など）の機能はご利用になれません。
- Windows標準のシステムツールまたは『セットアップガイド』に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- 内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- 購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。有料にてパスワードを解除します。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有料です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- 本製品はセキュリティ対策のためのパスワード設定や、無線LANの暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、当社はいっさいの責任を負いません。
- 本製品のセキュリティロック・スロットおよび接続するセキュリティケーブルは盗難を抑止するためのものであり、万が一発生した盗難事故の被害について、当社はいっさいの責任を負いません。

- 「ウイルスバスター」を使用している場合、ウイルス定義ファイルおよびファイアウォール規則などは、新種のウイルスやワーム、スパイウェア、クラッキングなどからコンピューターを保護するためにも、常に最新のものにアップデートする必要があります。最新版へのアップデートは、ご使用開始から90日間に限り無料で行うことができます。90日を経過するとウイルスチェック機能を含めて、すべての機能がご使用できなくなります。
  ウイルスチェックが全く行われない状態となりますので、必ず期限切れ前に有料の正規サービスへ登録するか、市販のウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトを導入してください。
- ご使用の際は必ず本書をはじめとする各種説明書と『エンドユーザー使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。
- アプリケーション起動時に使用許諾書が表示された場合は、内容を確認し、同意してください。使用許諾書に同意しないと、アプリケーションを使用することはできません。一部のアプリケーションでは、一度使用許諾書に同意すると、以降起動時に使用許諾書は表示されなくなります。リカバリーを行った場合には再び使用許諾書が表示されます。
- 『東芝保証書』は、記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

本製品のお客様登録（ユーザー登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。当社ホームページで登録できます。

参照 詳細について「付録 3 お客様登録の手続き」

9 ［ユーザー アカウント制御］画面について

操作の途中で［ユーザーアカウント制御］画面が表示された場合は、そのメッセージを注意して読み、開始した操作の内容を確認してから、画面の指示に従って操作してください。
パスワードの入力を求められた場合は、管理者アカウントのパスワードで認証を行ってください。

10 iGoogle設定画面について

本製品は、インターネットを利用してさまざまな情報を見るために有効な、「iGoogle」を搭載しています。
「iGoogle」は「Internet Explorer」を起動すると自動的に接続するよう設定されているので、「Internet Explorer」を起動したとき、次のような設定画面が表示される場合があります。

[興味のあるジャンルを選択]、[テーマを選択] でそれぞれ設定したい項目をチェックして、[ページを表示] ボタンをクリックしてください。
インターネットに接続した状態で [Internet Explorer] を起動すると、設定画面で選択した項目の情報が表示されるようになります。

1章

パソコンの基本操作を覚えよう

このパソコン本体の各部について、基本の使いかたなどを説明しています。

1 電源を入れるとき

1 メッセージが表示された場合

電源を入れたときにメッセージが表示された場合は、次の内容を確認してください。

■パスワードを設定している場合

- **ユーザーパスワードを設定している場合**

  電源を入れると次のメッセージが表示されます。

パスワードを入力して下さい。

  設定したユーザーパスワードを入力し、 *ENTER* キーを押してください。

  参照 パスワードについて「5章 2 パスワードセキュリティ」

- **HDDパスワードを設定している場合**

  電源を入れると次のメッセージが表示されます。

内蔵HDD/SSDのユーザーパスワードの入力

  設定したHDDパスワードを入力し、 *ENTER* キーを押してください。

メモ

- パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。
- ユーザーパスワードとHDD パスワードの両方を設定してある場合は、ユーザーパスワード→HDDパスワードの順に認証が求められます。ただし、ユーザーパスワードとHDD パスワードが同一の文字列の場合は、ユーザーパスワードの認証終了後、HDD パスワードの認証は省略されます。

参照 パスワードについて「5章 2 パスワードセキュリティ」

■メッセージが表示される場合

不明なメッセージについては、『セットアップガイド』の「Q&A集」をご覧ください。

2 起動するドライブを変更する場合

ご購入時の設定では、標準ハードディスクドライブからシステムを起動します。起動するドライブを変更したい場合、次の方法で変更できます。

■一時的に変更する

電源を入れたときに表示されるメニューから、起動するドライブを選択できます。

1 電源スイッチを押し、[dynabook] 画面が表示されている間に F12 キーを数回押す

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。
パスワードを入力して ENTER キーを押してください。

2 起動したいドライブを ↓ または ↑ キーで選択し、ENTER キーを押す

一時的にそのドライブが起動最優先ドライブとなり、起動します。

2 パソコンの使用を中断する

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スリープまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。
再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断したときの状態が再現されます。

⚠警告

- **電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る**
  パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線機能を無効に設定した上で、パソコンの電源を切ってください。他の機器に影響を与えることがあります。
  ・無線機能は、FN＋F8キーを押して無効にすることができます。FN＋F8キーを押して無線機能を無効に設定し、ワイヤレスコミュニケーションLEDが消灯しているのを確認してください。
  ・スリープや休止状態では、パソコンが自動的に動作することがあるため、飛行を妨げたり、他のシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
  ・電源を切った状態でもパソコンが自動的に動作するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効に（解除）してください。

お願い 操作にあたって

中断する前に
- スリープまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- スリープまたは休止状態を実行するときは、メディアへの書き込みが完全に終了していることを確認してください。
  書き込み途中のデータがある状態でスリープまたは休止状態を実行したとき、データが正しく書き込まれないことがあります。メディアを取り出しできる状態になっていれば書き込みは終了しています。

中断したときは
- スリープ中に以下のことを行わないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
  ・スリープ中にメモリを取り付け／取りはずしすること
  ・スリープ中にバッテリーをはずすこと
  また、スリープ中にバッテリー残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
  システムが起動しない場合は、電源スイッチを5秒間押していったん電源を切ったあと、再度電源を入れてください。この場合、スリープ前の状態は保持できていません（Windowsエラー回復処理で起動します）。
- スリープ中や休止状態では、バッテリーやメモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スリープまたは休止状態を利用しないときは、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。

1 スリープ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。
スリープはすばやく状態が再現されますが、バッテリーを消耗します。作業を中断している間にバッテリーの残量が少なくなった場合などは、通常のスリープではそれまでの作業内容は消失します。ACアダプターを取り付けて使用することを推奨します。
なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合（メモリやバッテリーパックの取り付け／取りはずしなど）は、スリープではなく、必ず電源を切ってください。
スリープの実行方法は『セットアップガイド』を確認してください。

メモ

- FN＋F3キーを押して、スリープを実行することもできます。

2 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合（メモリやバッテリーパックの取り付け／取りはずしなど）は、休止状態ではなく、必ず電源を切ってください。

1 休止状態の実行方法

1 ［スタート］ボタン（ ）をクリックし①、 にポインターを合わせる②

2 **表示されたメニューから［休止状態］をクリックする**

メニューが表示されない場合は、 ▷ をクリックしてください。

休止状態から復帰させるときは、電源スイッチを押してください。

メモ

- FN＋F4 キーを押して、休止状態にすることもできます。

3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

［スタート］メニューから操作せずに、パソコン本体の電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源OFF)、またはスリープ／休止状態にすることができます。

1 パソコン本体の電源スイッチを押したときの動作の設定

1 **［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする**

2 **［ システムとセキュリティ］をクリックする**

3 **［ 電源ボタンの動作の変更］をクリックする**

4 **［電源ボタンを押したときの動作］で［スリープ状態］［休止状態］［シャットダウン］のいずれかを選択する**

［何もしない］に設定すると、特に変化はありません。
「バッテリ駆動」時と「電源に接続」時のそれぞれについて設定してください。

5 **［変更の保存］ボタンをクリックする**

パソコン本体の電源スイッチを押すと、設定した状態へ移行します。

2 ディスプレイを閉じたときの動作の設定

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ システムとセキュリティ］をクリックする

3 ［ 電源ボタンの動作の変更］をクリックする

4 ［カバーを閉じたときの動作］で［スリープ状態］［休止状態］［シャットダウン］のいずれかを選択する

［何もしない］［シャットダウン］に設定すると、パネルスイッチ機能は働きません。
「バッテリ駆動」時と「電源に接続」時のそれぞれについて設定してください。

5 ［変更の保存］ボタンをクリックする

ディスプレイを閉じると、設定した状態へ移行します。
［スリープ状態］［休止状態］に設定した場合は、次にディスプレイを開くと、自動的にディスプレイを閉じる前の状態が再現されます。

メモ

- ディスプレイを閉じることによって［スリープ状態］［休止状態］のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。

3 タッチパッド

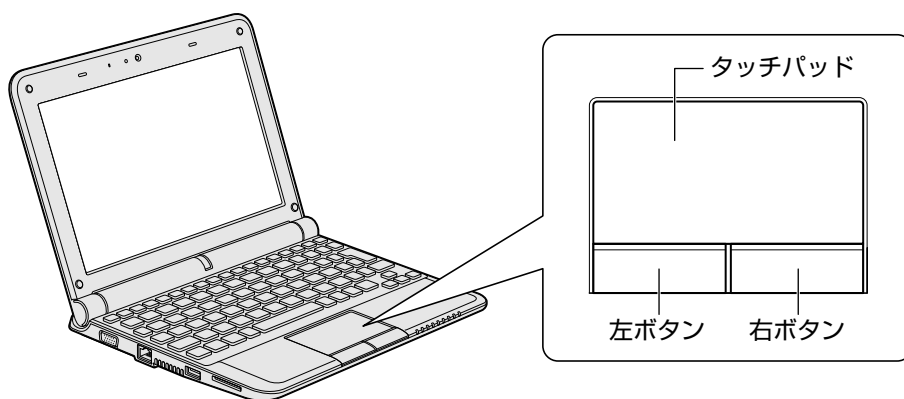
1 タッチパッドで操作する

電源を入れてWindowsを起動すると、パソコンのディスプレイに が表示されます。この矢印を「ポインター」といい、操作の開始位置を示しています。この「ポインター」を動かしながらパソコンを操作していきます。
パソコン本体には、「ポインター」を動かすタッチパッドと、操作の指示を与える左ボタン／右ボタンがあります。

タッチパッドと左ボタン／右ボタンを使ってポインターを動かし、パソコンを操作してみましょう。

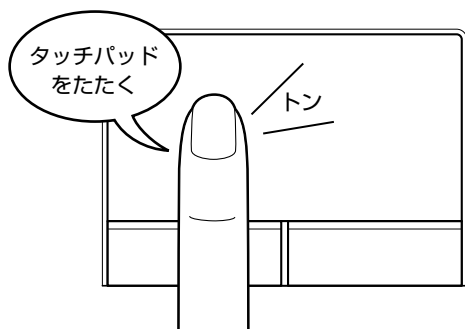
お願い **タッチパッドの操作にあたって**

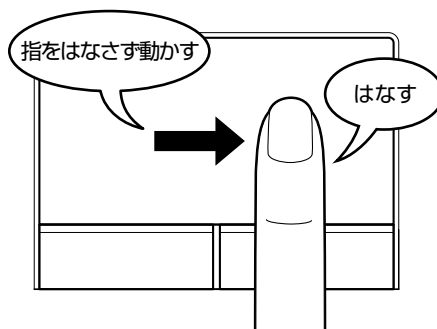
● あらかじめ、「付録 **1** - **1** - タッチパッドの操作にあたって」を確認してください。

＊イラストはUX/2＊シリーズです。

1 タッピングの方法

タッチパッドを指で軽くたたくことを「タッピング」といいます。
タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

❏ クリック／ダブルクリック

タッチパッドを1回軽くたたくとクリック、2回たたくとダブルクリックができます。

❏ ドラッグアンドドロップ

タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指をはなさずに目的の位置まで移動し、指をはなします。

2 タッチパッドの使用環境を設定する

タッチパッドやポインターの設定は、［マウスのプロパティ］で行います。

1 ［マウスのプロパティ］の起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ ハードウェアとサウンド］→［ マウス］をクリックする

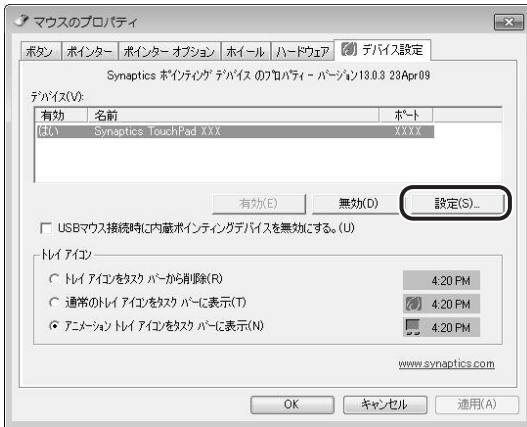
［マウスのプロパティ］画面が表示されます。

2 設定方法

1 ［マウスのプロパティ］の各タブで機能を設定し、［OK］ボタンをクリックする

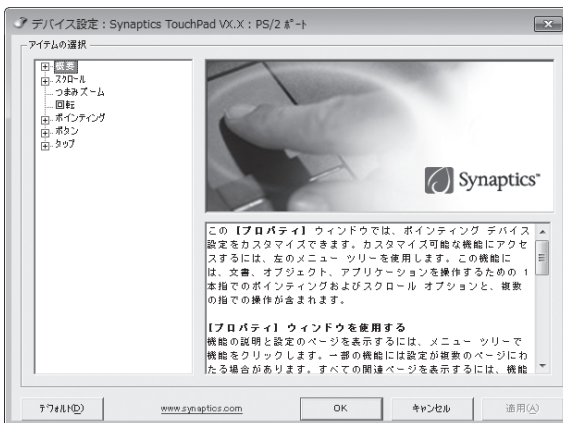
［キャンセル］ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

［マウスのプロパティ］では、タッチパッドやポインターなどの各種設定ができます。タッチパッドの設定をするには、引き続き次のように操作してください。

2 ［デバイス設定］タブで［設定］ボタンをクリックする

（表示例）

［デバイス設定］画面が表示されます。

3 画面左側に表示されているメニューから、設定したい項目をクリックする

画面右側に、選択した項目の設定内容と、その説明が表示されます。説明をよく読んで各項目を設定してください。
項目名の左に（⊞）が表示されている場合、項目名をダブルクリックすると、さらに細かい設定項目が表示されます。

（表示例）

役立つ操作集

タッチパッドを無効/有効にするには

キー操作でタッチパッドによる操作を無効にしたり、有効にしたりすることができます。

FN＋F9キーを押すごとに、タッチパッドの無効／有効が切り替わります。

FN＋F9キーでタッチパッドの有効／無効を切り替える場合は、タッチパッドから指をはなしてから行ってください。

FN＋F9キーでタッチパッドの操作を有効にした瞬間、カーソルの動きが数秒不安定になることがあります。そのような場合は、1度タッチパッドから指をはなしてください。しばらくすると、正常に操作できるようになります。

USB対応マウス接続時に、自動的にタッチパッドを無効にする

USB対応のマウスを接続したときに、タッチパッドによる操作が自動的に無効になるように設定することができます。

① [スタート] ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする
② [ハードウェアとサウンド] →［マウス］をクリックする
③ [デバイス設定] タブで［USBマウス接続時に内蔵ポインティングデバイスを無効にする。］をチェックする
④ [OK] ボタンをクリックする

FN＋F9キーを押して設定する「タッチパッドオン／オフ機能」とは連動していません。

市販のUSB対応マウスをお使いの場合、マウスの種類によっては、本機能が動作しない場合があります。

1章 パソコンの基本操作を覚えよう

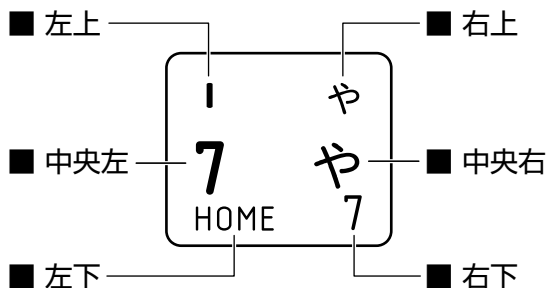
4 キーボード

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

1 キーボード図

PRTSC(プリントスクリーン)
<SYSRQ(システムリクエスト)>キー
PAUSE(ポーズ)<BREAK(ブレーク)>キー
INS(インサート)キー
文字の入力モードを挿入／上書きに切り替えるときなどに使う
DEL(デリート)キー
文字を削除するときなどに使う
BACKSPACE(バックスペース)キー
ENTER(エンター)キー
作業を実行するときなどに使う
オーバーレイキー
SHIFT(シフト)キー
矢印キー
カーソル移動などに使う
また、FN（エフエヌ）キーとの組み合わせにより、特殊機能を実行するときに使う
FN(エフエヌ)キー
オーバーレイキーを使用するときやファンクションキー、矢印キーとの組み合わせにより、特殊機能を実行するときに使う
アプリケーションキー
タッチパッド手前の右ボタンや、マウスの右ボタンを押すことと同じ動作を行いたいときに使う
カナ/かな<ローマ字>キー
変換キー

2 キーボードの文字キーの使いかた

文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。文字キーに印刷されている2～6種類の文字や記号は、キーボードの文字入力の状態によって変わります。

左上	ほかのキーは使わず、そのまま押すと、アルファベットの小文字などが入力できます。SHIFTキーを押しながら押すと、記号やアルファベットの大文字が入力できます。
中央左	ほかのキーは使わず、そのまま押すと、数字や記号が入力できます。
右上	かな入力ができる状態でSHIFTキーを押しながら押すと、記号、ひらがなの促音（小さい「っ」）、拗音（小さい「ゃ、ゅ、ょ」）などが入力できます。
中央右	かな入力ができる状態で押すと、ひらがなや記号が入力できます。
左下	アロー状態のときに押すと、カーソル制御キーとして使えます。
右下	数字ロック状態のときに押すと、テンキーとして使えます。

「TOSHIBA Flash Cards」について

「TOSHIBA Flash Cards」は、タッチパッドやマウスの操作で簡単にホットキー機能の実行や東芝製のユーティリティを起動することができるユーティリティです。
デスクトップ上にカードのように表示されるアイコンを選択し、それぞれのカードに割り当てられている機能を設定・実行することができます。

■操作方法

1 FNキーを押す

次のように「TOSHIBA Flash Cards」が表示されます。

（表示例）

2 設定したい機能のカードをクリックする

カードとアイコンが表示されます。

3 表示されたアイコンのうち、設定したい項目にポインターを合わせる

ポインターを合わせると、アイコンが大きくなります。

4 設定したい項目のアイコンが大きい状態でクリックする

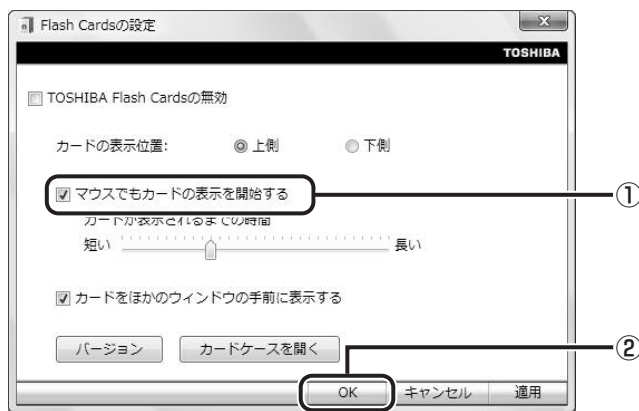
選択した項目に設定されます。

各カードに割り当てられている機能は、「TOSHIBA Flash Cards」のヘルプを参照してください。

■マウス操作でカードを表示させる

ポインターをデスクトップ上部に合わせることによって「TOSHIBA Flash Cards」が表示されるように設定することもできます。次の手順を行ってください。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Flash Cardsの設定］をクリックする

2 ［マウスでもカードの表示を開始する］をチェックし①、［OK］ボタンをクリックする②

■「TOSHIBA Flash Cards」のヘルプの起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Flash Cards ヘルプ］をクリックする

キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせて押すと、いろいろな操作が実行できます。

❏ FNキーを使った特殊機能キー

キー	内容
FN＋ESC ＜スピーカーのミュート＞	FNキーを押したまま、ESCキーを押すたびに内蔵スピーカーやヘッドホンの音量のミュート（消音）のON／OFFを切り替えます。
FN＋SPACE ＜本体液晶ディスプレイの解像度切り替え＞	FNキーを押したまま、SPACEキーを押すたびに本体液晶ディスプレイの解像度を切り替えます。
FN＋F1 ＜インスタントセキュリティ機能＞	コンピューターをワークステーションロック状態にします。 解除するには、ユーザー名をクリックしてください。Windowsのログオンパスワードを設定している場合は、パスワードの入力画面にWindowsのログオンパスワードを入力し、ENTERキーを押してください。
FN＋F2 ＜電源プランの設定＞	FN＋F2キーを押すと、設定されている電源プランが表示されます。 FNキーを押したまま、F2キーを押すたびに電源プランが切り替わります。
FN＋F3 ＜スリープ機能の実行＞	FNキーを押したまま、F3キーを押し直し、［スリープ］アイコンが大きい状態で指をはなすと、スリープ機能が実行されます。
FN＋F4 ＜休止状態の実行＞	FNキーを押したまま、F4キーを押し直し、［休止状態］アイコンが大きい状態で指をはなすと、休止状態が実行されます。
FN＋F5 ＜表示装置の切り替え＞	表示装置を切り替えます。 参照 詳細について「3章 3-2 表示を切り替える」
FN＋F6 ＜本体液晶ディスプレイの輝度を下げる＞	FNキーを押したまま、F6キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。表示される画面のスライダーバーで輝度の状態を確認できます。
FN＋F7 ＜本体液晶ディスプレイの輝度を上げる＞	FNキーを押したまま、F7キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。表示される画面のスライダーバーで輝度の状態を確認できます。
FN＋F8 ＜無線通信機能のON／OFF＞	BIOSセットアップで無線通信機能をONにしている場合、FNキーを押したまま、F8キーを押すたびに使用する無線LANのON／OFFを切り替えます。
FN＋F9 ＜タッチパッド ON／OFF機能＞	タッチパッドからの入力を無効にできます。再び有効にするには、もう1度FN＋F9キーを押します。 参照 詳細について「本章 3-2-役立つ操作集 - タッチパッドを無効／有効にするには」

キー	内容
FN＋F10 <オーバーレイ機能>	キー左下に印刷された、カーソル制御キーとして使用できます（アロー状態）。アロー状態を解除するには、もう1度FN＋F10キーを押します。 Arrow Mode LEDが点灯します。
FN＋F11 <オーバーレイ機能>	キー右下に印刷された、数字などの文字を入力できます（数字ロック状態）。数字ロック状態を解除するには、もう1度FN＋F11キーを押します。 アプリケーションによっては異なる場合があります。 Numeric Mode LEDが点灯します。
FN＋F12 <スクロールロック状態>	一部のアプリケーションで、↑↓←→キーを画面スクロールとして使用できます。ロック状態を解除するには、もう1度FN＋F12キーを押します。
FN＋↑ <PGUP（ページアップ）>	一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、↑キーを押すと、前のページに移動できます。
FN＋↓ <PGDN（ページダウン）>	一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、↓キーを押すと、次のページに移動できます。
FN＋← <HOME（ホーム）>	一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、←キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。
FN＋→ <END（エンド）>	一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、→キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。
FN＋1 <縮小>	デスクトップや一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、1キーを押すと、画面やアイコンなどが縮小されます。
FN＋2 <拡大>	デスクトップや一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、2キーを押すと、画面やアイコンなどが拡大されます。
FN＋3 <音量小>	スピーカーの音量を小さくする 参照「本章 7 サウンド」
FN＋4 <音量大>	スピーカーの音量を大きくする 参照「本章 7 サウンド」

役立つ操作集

「TOSHIBA Smooth View」

「TOSHIBA Smooth View」は、キーボードを使って、最前面に表示されているアプリケーションの画面やデスクトップ上のアイコンを拡大／縮小表示できるアプリケーションです。

- **起動方法**

  ① ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Smooth View］をクリックする

- **ヘルプの起動方法**

  ① ［TOSHIBA Smooth View］を起動後、画面右上の［ヘルプ］ボタン（ ? ）をクリックする

  ② 画面上の知りたい項目にポインターを合わせ、クリックする

- **使用方法**

  ① FN キーを押したまま、1 キーまたは 2 キーを押す

  画面やアイコンなどを縮小するときは 1 キー、拡大するときは 2 キーを押します。

❏ 特殊機能キー

特殊機能	キー	操作
タスクマネージャーの起動	CTRL + SHIFT + ESC	［Windows タスクマネージャー］画面が表示されます。 アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	PRTSC	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	ALT + PRTSC	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

5 ハードディスクドライブ

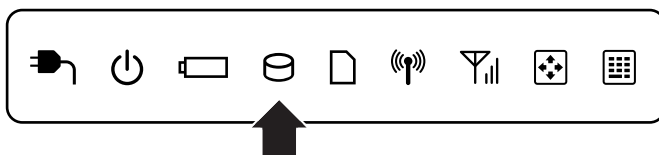
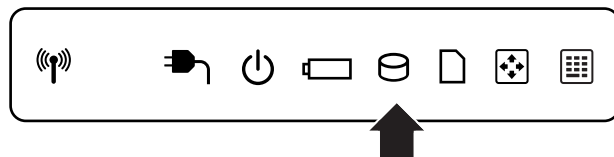
本製品には、ハードディスクドライブが1台内蔵されています。
内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。
USB接続型のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

お願い **操作にあたって**

- パソコンを激しく揺らしたり、強い衝撃を与えると、故障の原因となる場合があります。
- その他の注意事項については、あらかじめ、「付録 1 - 2 ハードディスクドライブについて」を確認してください。

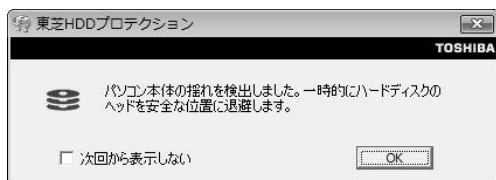
ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクとデータをやり取りしているときは、Disk LEDが点灯します。

■UX/2＊シリーズの場合

■UX/1＊シリーズの場合

ハードディスクに記録された内容は、故障や障害の原因にかかわらず保証できません。
万が一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

1 東芝HDDプロテクションについて

＊東芝HDDプロテクションがインストールされているモデルのみ

「東芝HDDプロテクション」とは、パソコン本体に内蔵された加速度センサーにより落下・振動・衝撃およびその前兆を検出し、HDD（ハードディスクドライブ）が損傷する危険性を軽減する機能です。
パソコンの使用状況に合わせ、検出レベルを設定できます。
パソコン本体の揺れを検知すると、次のメッセージが表示されます。

メッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックして、画面を閉じてください。
HDDのヘッドを退避しているとき、通知領域の［東芝HDDプロテクション］アイコン（ ）が（ ）に変わります。

お願い 東芝HDDプロテクションの使用にあたって

- あらかじめ「付録 1 - 2 - 東芝HDDプロテクションの使用にあたって」を確認してください。

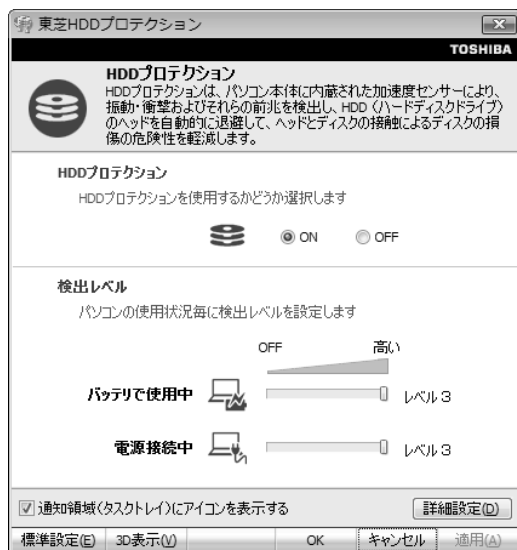
メモ

- 購入時の状態では、東芝HDDプロテクションがONに設定されています。
- パソコン起動時、スリープ、休止状態、および休止状態へ移行中と休止状態からの復帰中、電源を切ったときには、東芝HDDプロテクションは動作しません。パソコンに衝撃が加わらないようにご注意ください。
- 音楽や動画の再生中に、パソコン本体の揺れを検出してHDDのヘッド退避が行われた場合、再生中の音楽や動画が一時的に途切れることがあります。

設定方法

東芝HDDプロテクションでは、パソコンの使用状況に合わせて検出レベルを設定することができます。

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［HDDプロテクションの設定］をクリックする**

［東芝HDDプロテクション］画面が表示されます。

（表示例）

メモ 3D表示

- ［東芝HDDプロテクション］画面で［3D表示］ボタンをクリックすると、［3D表示］画面が表示され、パソコン本体の傾きや揺れに合わせて動く3Dオブジェクトを画面上に表示します。振動を検出し、HDDのヘッドを退避させている間は、画面に表示されているディスクの回転が停止し、ヘッド退避が解除されると、回転が再開します。
  ［3D表示］画面を終了する場合は、［閉じる］ボタンをクリックしてください。
- ［3D表示］画面の3Dオブジェクトは、パソコン本体に内蔵されたハードディスクを仮想的に表現したものであり、ハードディスクのディスクの枚数や、ディスクの回転、ヘッドの動作、各部品のサイズや形状、向きなどは実際のものとは異なります。
- ［3D表示］画面を表示した状態でほかの作業を行ったときに、CPUやメモリの使用率が高くなる場合があるため、パソコンの動作が遅くなることがあります。

2 各項目を設定する

設定項目は、次のとおりです。
東芝HDDプロテクションを「ON」に設定すると、電源（ACアダプター）接続時とバッテリー使用時でそれぞれ検出レベルを設定することができます。
例えば、机上でパソコンを使う場合（電源接続中）にはレベルを上げておき、手で持って使うとき（バッテリーで使用中）にはレベルを下げる、といった使いかたができます。

HDDプロテクション	東芝HDDプロテクションの「ON」または「OFF」を設定できます。
バッテリーで使用中	「OFF」、「レベル1」、「レベル2」、「レベル3」のいずれかを選択できます。 「レベル3」が最も検出レベルが高いため、東芝HDDプロテクションを有効に使用するには、「レベル3」をおすすめします。 使用状況に応じてレベルを低く設定できます。＊1
電源接続中	

＊1 パソコンを手に持って操作したり、不安定な場所で操作した場合、頻繁にHDDプロテクションが動作し、パソコンの応答が遅れることがあります。パソコンの応答速度を優先する場合は、設定を下げてご使用できます。

購入時の設定に戻したい場合は、［標準設定］ボタンをクリックしてください。
さらに詳細な設定が必要な場合は手順 3 へ、このまま設定を終了する場合は、手順 5 へ進んでください。

3 ［詳細設定］ボタンをクリックする

［詳細設定］画面が表示されます。

4 必要な項目をチェックし、［OK］ボタンをクリックする

設定項目は、次のとおりです。

ACアダプターを抜いたとき	検出レベル増幅機能を設定できます。パソコンが持ち運ばれる可能性が高いと想定し、約10秒間検出レベルを最大にします。
パネルを閉めたとき	
HDDプロテクション動作時メッセージを表示する	東芝HDDプロテクションが動作したときに、メッセージを表示するように設定できます。

5 ［東芝HDDプロテクション］画面で［OK］ボタンをクリックする

メモ

- 東芝HDDプロテクションの各設定は、通知領域の［東芝HDDプロテクション］アイコン（ ）をクリックし、表示されたメニューから項目を選択して行うこともできます。

6 画面を見やすく調整する
ー ディスプレイ ー

本製品は表示装置としてTFTカラー液晶ディスプレイ（1024×600ドット）を内蔵しています。ドットは画素数を表します。
外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

1 画面の明るさを調整する

❏ 輝度を調整する

本体液晶ディスプレイの明るさ（輝度）を調整します。輝度は「1～8」の8段階で設定ができます。
設定方法は、次のとおりです。

FN＋F6 ： FNキーを押したまま、F6キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。
表示される［輝度］のカードとスライダーバーで状態を確認できます。

FN＋F7 ： FNキーを押したまま、F7キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。
表示される［輝度］のカードとスライダーバーで状態を確認できます。

7 サウンド

1 スピーカーの音量を調整する

スピーカーの音量は、次の方法で調整できます。

1 FN＋3 または FN＋4キーで調整する

1 音量を小さくしたいときはFN＋3キー、大きくしたいときはFN＋4キーを押す

FNキーを押したまま3キーを押すたびに音量が小さくなり、FNキーを押したまま4キーを押すたびに音量が大きくなります。

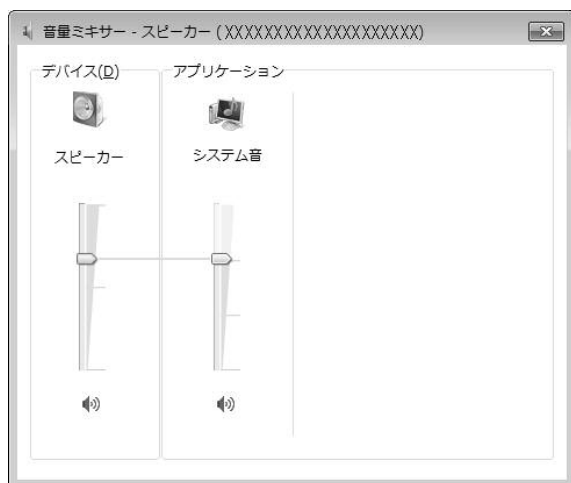
2 音量ミキサーから調整する

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ ハードウェアとサウンド］→［ システム音量の調整］をクリックする

［音量ミキサー］画面が表示されます。

3 各項目でつまみを上下にドラッグして調整する

［ミュート］ボタン（ ）をクリックすると消音（ミュート）になります。

（表示例）

❏ 音楽／音声を再生するとき

音量ミキサーの各項目では、次の音量が調整できます。

スピーカー	スピーカーの音量を調整します。
システム音	Windowsのプログラムイベント（Windowsの終了、システムエラーなどの動作）で再生されるサウンド設定の音量を調整します。

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

3 Realtek HD オーディオマネージャについて

Realtek HD オーディオマネージャでは、オーディオ機能のいろいろな設定を変更することができます。

設定方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ ハードウェアとサウンド］をクリックする

3 ［ Realtek HD オーディオマネージャ］をクリックする

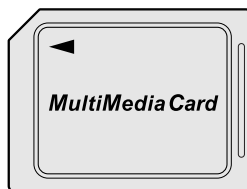
［Realtek HD オーディオマネージャ］画面が表示されます。

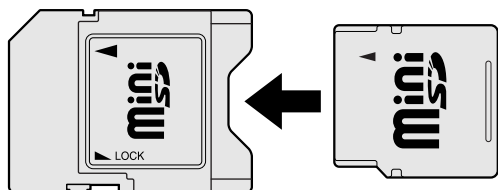
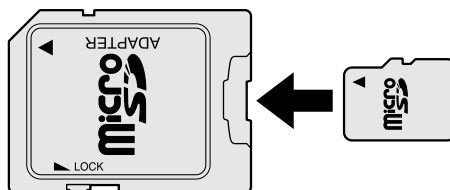
4 各ボタンやタブをクリックし、オーディオ機能を調整する

8 いろいろなメディアカードを使う
ー ブリッジメディアスロット ー

本製品では次のメディアカードをブリッジメディアスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

● SDメモリカード*1
（以降、SDHCメモリカード*1を含みます。）

● マルチメディアカード

次のメディアカードは、市販のアダプターを装着すると、本製品のブリッジメディアスロットでも使用できます。必ずアダプターを装着した状態でご使用ください。

● miniSDメモリカード*1
SDメモリカードサイズのminiSDメモリカード用のアダプターを使用します。

● microSDメモリカード*1
SDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターを使用します。

＊1 著作権保護技術CPRMに対応しています。

アダプターの装着や使用方法は、メディアカードの取扱説明書を確認してください。

本書では、特に区別して説明する場合を除き、SDメモリカード、miniSDメモリカード、microSDメモリカードを「SDメモリカード」と呼びます。

それぞれのメディアカードで使用できる容量については『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

コンパクトフラッシュメモリカードなどは使用できません。使用する場合はUSB経由で周辺機器（デジタルカメラなど）を接続するか、専用のカードリーダーをご使用ください。

1 メディアカードを使う前に

お願い メディアカードの使用にあたって

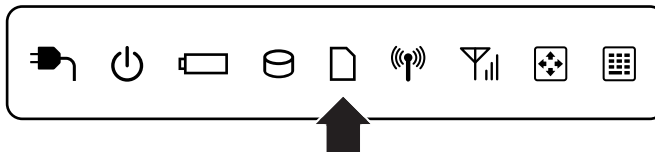
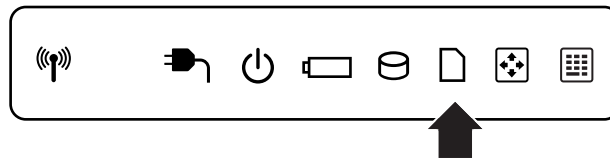
- あらかじめ、「付録 2-1 メディアカードを使う前に」を確認してください。

新品のメディアカードは、メディアカードの規格に合わせてフォーマットされた状態で販売されています。
フォーマットとは、メディアカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、メディアカードを使えるようにすることです。
再フォーマットをする場合は、メディアカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。

2 メディアカードのセットと取り出し

ブリッジメディアスロットに関する表示

パソコン本体に電源が入っている場合、ブリッジメディアスロットに挿入したメディアカードとデータをやり取りしているときは、ブリッジメディア LEDが点灯します。

■UX/2＊シリーズの場合

■UX/1＊シリーズの場合

お願い 操作にあたって

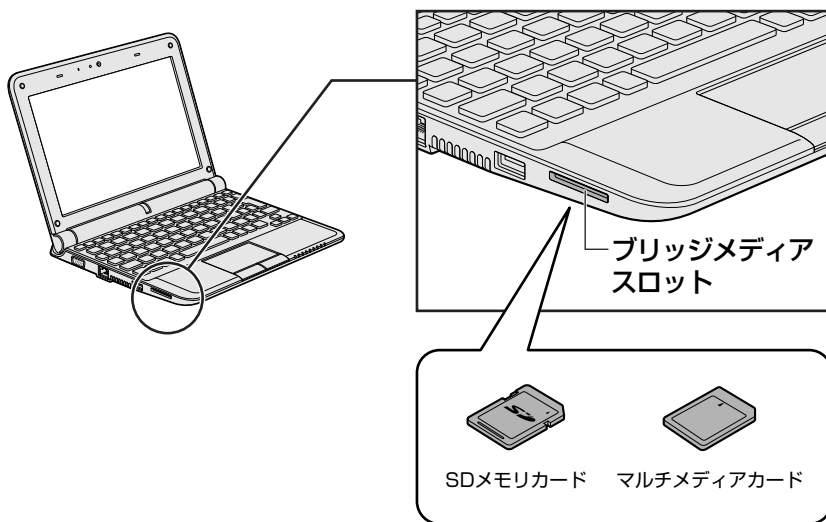
- あらかじめ、「付録 2-1-1 メディアカードの操作にあたって」を確認してください。

1 セットする

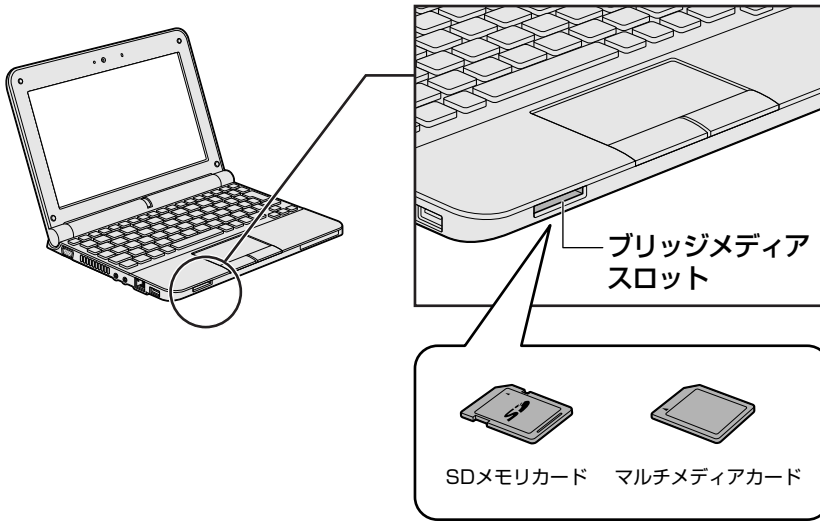
1 メディアカードの表裏を確認し、表を上にして、ブリッジメディアスロットに挿入する

■UX/2＊シリーズの場合

メディアカードがブリッジメディアスロットの奥に突き当たるまで、静かに挿入してください。

このとき、メディアカードがパソコン本体から少し出た状態になります。無理に押し込まないでください。

■UX/1＊シリーズの場合

「カチッ」という音がするまで挿入してください。

お願い

- miniSDメモリカード、microSDメモリカードは、SDメモリカードサイズのアダプターが必要です。

2 セットしたメディアカードの内容を見る

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。
著作権保護されているファイルについては、見ることができない場合があります。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コンピューター］をクリックする

［コンピューター］画面が表示されます。

2 メディアカードのアイコンをダブルクリックする

以下の名称は表示の一例です。異なる名称が表示される場合があります。

SDメモリカード　：SD Card、リムーバブルディスク
マルチメディアカード　：MMC Card　（表示例）

セットしたメディアカードの内容が表示されます。

メモ

- メディアカードによっては、ブリッジメディアスロットにセットすると、自動的に内容が表示されたり、メディアカードに対する操作を選択する画面が表示される場合があります。選択画面が表示されたときは、［フォルダーを開いてファイルを表示］を選択してください。

（表示例）

3 取り出す

メディアカードに保存しているファイルを使用していたり、ウィンドウを開いたりしていると、取り出しができません。
ウィンドウやファイルを閉じてから、操作を行ってください。

1 メディアカードの使用を停止する

① **［スタート］ボタン（ ）→［コンピューター］をクリックする**

［コンピューター］画面が表示されます。

② **メディアカードのアイコンを右クリックし①、［取り出し］をクリックする②**

（表示例）

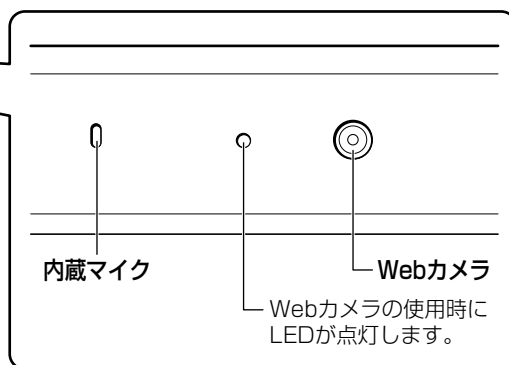
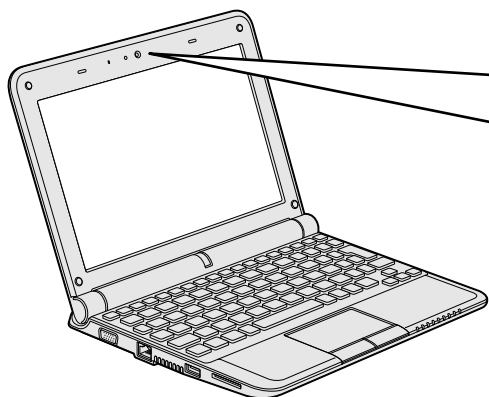
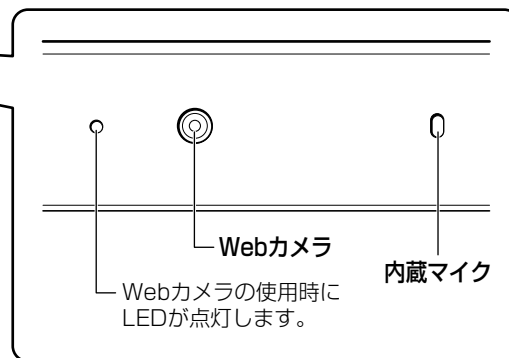
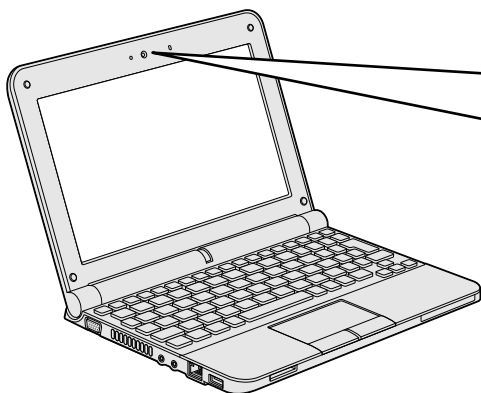
通知領域に［ハードウェアの取り外し］のメッセージが表示されます。

2 メディアカードを取り出す

UX/2＊シリーズの場合は、ブリッジメディアスロットから出ている部分を持ち、静かに引き抜いてください。
UX/1＊シリーズの場合は、カードを押してください。カードが少し出てきます。
そのまま手で取り出します。

9 Webカメラを使う

本製品には、「Webカメラ」が内蔵されています。
専用のアプリケーションを使うと、インターネット経由で映像を送ったり、ビデオチャットを行ったりできます。

■UX/2＊シリーズの場合

■UX/1＊シリーズの場合

お願い Webカメラについて

- Webカメラに保護シートが貼ってある場合には、Webカメラを使用する前に、必ず保護シートをはがしてください。
- あらかじめ、「付録 1 - 7 Webカメラについて」を確認してください。

1 Webカメラのアプリケーションについて

本製品には、Webカメラ用のアプリケーションが用意されています。

1 起動方法

購入時の状態では、Windowsを起動すると画面左側にWebカメラのアプリケーションが隠れています。カーソルを画面の左隅に向かって動かすと、「東芝ウェブカメラアプリケーション」の起動画面が表示されます。
アプリケーションを終了させた場合は、次のように操作して起動してください。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［ウェブカメラアプリケーション］をクリックする

「東芝ウェブカメラアプリケーション」が起動します。

2 写真や動画を撮影する

「東芝ウェブカメラアプリケーション」の起動画面で、［写真/ビデオ］（ ）を選択してください。
カメラ画面が表示されます。
画面上の各ボタンの概要は、次のようになっています。
詳しくは、「東芝ウェブカメラアプリケーション」のヘルプを参照してください。

- **左端のボタン**
  画面の解像度を設定できます。
- **［設定］ボタン**
  撮影した画像や映像の保存先や、保存形式、映像品質を設定できます。
- **［キャプチャ］ボタン**
  画面に映っている画像を、写真として撮影します。
- **［録画］ボタン**
  画面に映っている画像を、映像として録画します。
- **右端の［>］ボタン**
  画面右側に表示できるプレビューの、表示／非表示を切り替えます。

3 画面を編集する

「東芝ウェブカメラアプリケーション」の起動画面で、［設定］（ ）を選択してください。
設定画面が表示されます。
各タブの概要は、次のようになっています。

- **［全般］タブ**
  明るさやコントラスト、色調、彩度、鮮明度などを設定できます。
- **［アドバンスト］タブ**
  ズーム機能や撮影時のカメラ制御、フォーカス、フラッシュなどを設定できます。

詳しくは、「東芝ウェブカメラアプリケーション」のヘルプを参照してください。

4 画像品質を設定する

「東芝ウェブカメラアプリケーション」の起動画面で、［エフェクト］（ ）を選択してください。
フレームやスクリーンカバーを選択できる、設定画面が表示されます。

ヘルプの起動方法

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［ウェブカメラアプリケーションヘルプ］をクリックする**

2章

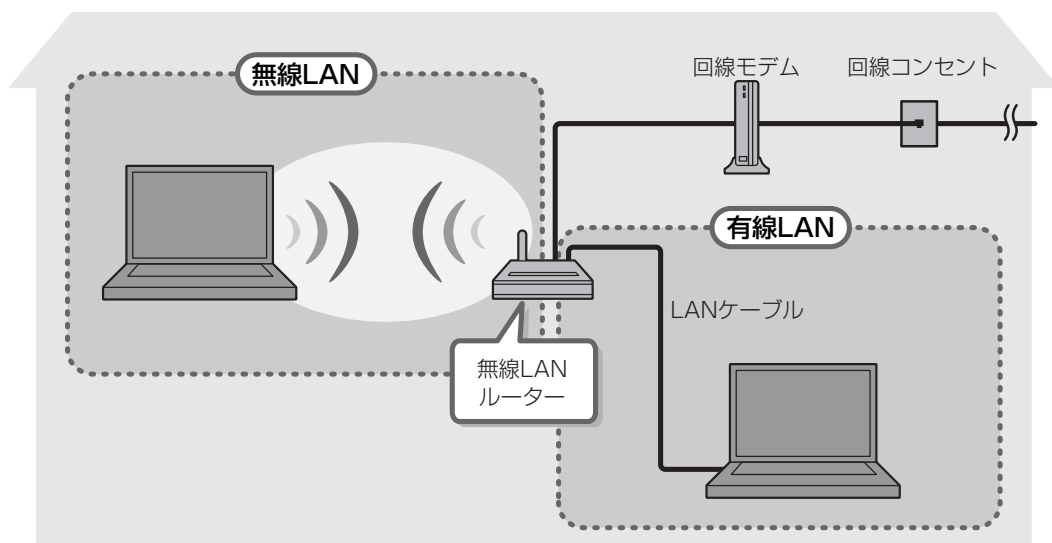
ネットワークの世界へ

本製品に搭載されている通信に関する機能を説明しています。
ブロードバンドでインターネットに接続する方法や、ほかのパソコンと通信する方法について紹介します。

1 ネットワークで広がる世界

会社や家庭でそれぞれ自分専用のパソコンを持っている場合、1つのプリンターを共有したいときや、インターネット接続を使いたいときは、ネットワークを使うと便利です。

1 LAN接続はこんなに便利

会社や家庭でそれぞれが自分専用のパソコンを持っている場合や、ひとりで複数のパソコンを持っているなど、複数のパソコンがあるときは、LAN（Local Area Network）を使うと便利です。
LAN機能にはケーブルを使った有線LANと、ケーブルを使わない無線LANがあります。

（接続例）

■有線LAN

有線LANの機能やLANケーブルの接続については、「本節 2 ブロードバンドで接続する」を参照してください。

■無線LAN

無線LANとは、パソコンにLANケーブルを接続していない状態でもネットワークに接続できる、ワイヤレスのLAN機能のことです。モデムやルーターの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピューターをLANシステムに接続できます。
無線LANルーターや無線LANアクセスポイント（市販）を使用することによって、パソコンからワイヤレスでネットワーク環境を実現できます。

ネットワークに接続したあとに、ファイルの共有の設定や、ネットワークに接続しているプリンターなどの機器の設定を行う必要があります。ネットワーク機器の接続先やネットワークの詳しい設定については、［スタート］ボタン（ ）→［ヘルプとサポート］をクリックして、『Windowsヘルプとサポート』を参照してください。
ネットワークに接続している機器の設定は、それぞれの取扱説明書を確認してください。
また、会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

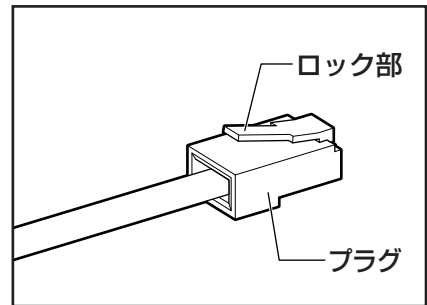
2 ブロードバンドで接続する

本製品には、ブロードバンド接続などに使用するLAN（ラン）機能が搭載されています。
本製品のLANコネクタにブロードバンドの回線機器やブロードバンドルーターなどをLANケーブルで接続することができます。
また、本製品のLAN機能は、Fast（ファスト） Ethernet（イーサネット）（100BASE-TX）、Ethernet（イーサネット）（10BASE-T）に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。Fast Ethernet、Ethernetは、ご使用のネットワーク環境（接続機器、ケーブル、ノイズなど）により、自動で切り替わります。

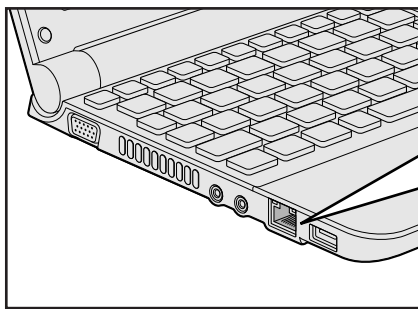
1 LANケーブルを接続する

お願い LANケーブルの使用にあたって

- あらかじめ、「付録 1-3 有線LANについて」を確認してください。

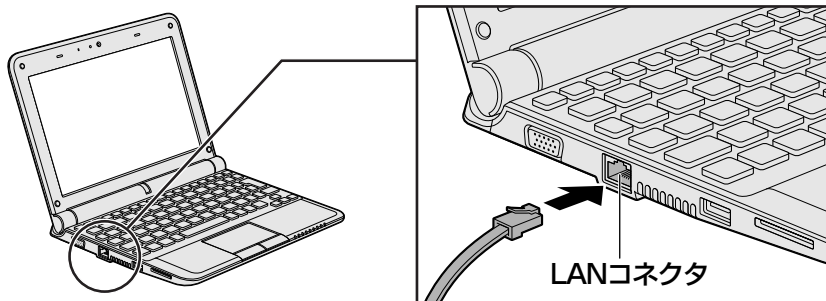
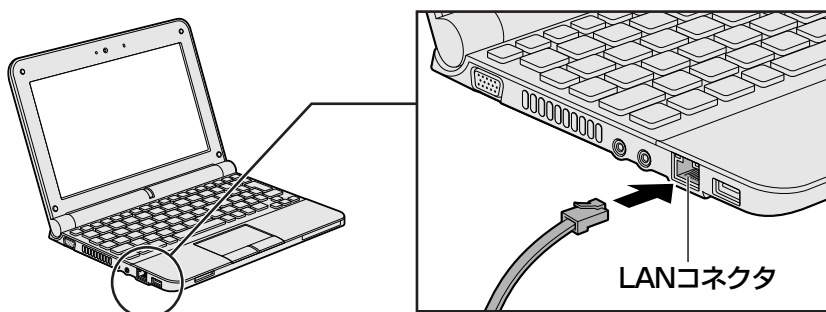
LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

動作状態を確認するには

＊UX/1＊シリーズのみ

LANコネクタの両脇には、LANインターフェースの動作状態を示す2つのLEDがあります。

1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LANケーブルのプラグをパソコン本体のLANコネクタに差し込む

ロック部を上にして、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。

■UX/2＊シリーズの場合

■UX/1＊シリーズの場合

3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

接続する機器の名称や以降の設定はプロバイダーによって異なります。詳しくは契約しているプロバイダーにお問い合わせください。

3 ワイヤレス（無線）LANを使う

1 無線LANモジュールの確認

本書では、内蔵された無線LANモジュールの種類によって説明が異なる項目があります。
使用しているパソコンに内蔵された無線LANモジュールの種類は、「ConfigFree（コンフィグフリー）」を使って確認できます。

1 通知領域の［ConfigFree］アイコン（ ）をクリックする

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

2 表示されたメニューでアダプター名を確認する

アダプターが示すモジュールは、それぞれ次のようになります。

- **「Intel(R) Centrino(R) WiMAX 6250」の場合**
  IEEE802.11a、IEEE802.11b、IEEE802.11gおよびIEEE802.11nに対応したモジュールです。また、IEEE802.16e-2005に準拠しています。このモジュールを、「Intel a/b/g/n-WiMAXモジュール」と呼びます。
- **「Atheros AR9285 Wireless Network Adapter」の場合**
  IEEE802.11b、IEEE802.11gおよびIEEE802.11nに対応したモジュールです。このモジュールを、「Atheros b/g/nモジュール」と呼びます。

本製品の無線LANモジュールの仕様については、「付録 6 - 1 無線LANの概要」と『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

⚠ 警告

- **パソコン本体を航空機に持ち込む場合、パソコン本体の電源を切る**
  パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。
  ・無線機能は FN ＋ F8 キーを押して無効にすることができます。FN ＋ F8 キーを押してワイヤレスコミュニケーションを無効に設定し、ワイヤレスコミュニケーションLEDが消灯しているのを確認してください。ワイヤレスコミュニケーションLEDが点灯していると、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。
  ・スリープや休止状態では、パソコンが自動的に動作することがあるため、飛行を妨げたり、他のシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
  ・航空機内でのパソコンのご使用は、航空会社の指示に従ってください。
- **無線LANモジュールが内蔵されている製品をお使いになる場合、心臓ペースメーカーを装着している方は、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す**
  電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

お願い 無線LANのご使用にあたって

- あらかじめ、「付録 1-4 無線LANについて」を確認してください。
  セキュリティに関しての注意事項や使用上の注意事項を説明しています。

2 無線LAN（無線通信機能）のON／OFFの方法

無線LAN（無線通信機能）のON／OFFはBIOSセットアップや FN ＋ F8 キー、「ConfigFree」などで設定できます。

BIOSセットアップでON／OFFを設定する

パソコン本体の電源を切った状態で、次の操作を実行してください。

1 電源スイッチを押し、[dynabook] 画面が表示されている間に F2 キーを数回押して、BIOSセットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。
パスワードを入力して ENTER キーを押してください。

2 [詳細] メニューを表示する

無線通信機能（Wireless Comm SW）のON／OFFを設定してください。

FN＋F8キーでON／OFFを設定する

1 FN ＋ F8 キーを押す

FN キーを押したまま F8 キーを押すたびに、無線通信機能のON／OFFが切り替わります。

その他の方法で設定する

その他の、無線の設定方法には次の2種類があります。

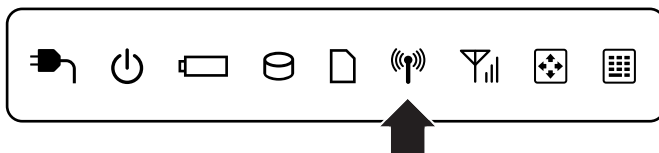
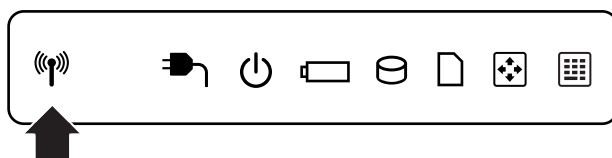
- 「ConfigFree」を使う
- Windows標準機能を使う

「ConfigFree」を使って設定する場合は、「本項 3 - 役立つ操作集 - ConfigFree」を参照してください。
また、Windows標準機能を使って設定する場合は、[スタート] ボタン（ ）→ [ヘルプとサポート] をクリックして、『Windowsヘルプとサポート』を参照してください。

無線LANを無効にするには、「ConfigFree」で無線LANのデバイスを無効にしてください。

3 ワイヤレスコミュニケーションLED

無線通信機能がONになると、ワイヤレスコミュニケーション LEDがオレンジ色に点灯します。OFFのときは消灯しています。
無線通信機能を使用するときは確認してください。

■UX/2＊シリーズの場合

■UX/1＊シリーズの場合

役立つ操作集

ConfigFree
本製品に用意されている「ConfigFree」を使うと、近隣の無線LANデバイスを検出したり、LANケーブルをはずすと自動的に無線LANに切り替えるなど、ネットワーク設定に便利な機能が使えます。
詳しくは、「ConfigFree」の「ファーストユーザーズガイド」をご覧ください。
「ConfigFree」は、コンピューターの管理者のユーザーアカウントで使用してください。

- **ファーストユーザーズガイドの起動方法**
  ① [スタート] ボタン（ ）→ [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ConfigFree] → [ConfigFreeファーストユーザーズガイド] をクリックする
- **「ConfigFree」の起動方法**
  購入時の状態では、Windowsを起動すると通知領域に「ConfigFree」のアイコン（ ）が表示されています。
  「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。
  ① [スタート] ボタン（ ）→ [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ConfigFree] → [ConfigFree トレイ] をクリックする

4 セキュリティの設定

無線LAN機能を使用する場合、セキュリティ設定を行うことをおすすめします。
セキュリティの設定を行っていない場合、さまざまな問題が発生する可能性があります。

参照 無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意『安心してお使いいただくために』

これらの問題に対応するためには、無線アクセスポイント、無線LANカードの双方で通信データの暗号化などのセキュリティが必要になります。
本製品には、無線LANを使用するにあたっての問題に対応するためのセキュリティ機能が用意されています。
次のセキュリティ設定を行い、セキュリティ機能を有効にして本製品を使用すれば、それらの問題が発生する可能性を低くすることができます。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ インターネットへの接続］をクリック→［ワイヤレス］をクリックする

現在のワイヤレスネットワークへの接続状態が表示されます。

3 画面右下の［ワイヤレスネットワーク接続］画面で、接続したいアクセスポイント名をクリックする

4 ［自動的に接続する］をチェックし、［接続］ボタンをクリックする

5 ［ネットワークに接続］画面で必要なネットワークセキュリティ情報を入力し、［OK］ボタンをクリックする

選択する項目、データ暗号化の方式、ネットワーク キーの詳細は、お使いになる無線アクセスポイントの取扱説明書を確認のうえ、正しく設定してください。正しく設定していない場合、無線アクセスポイントに接続できない場合があります。

3章

周辺機器を使って機能を広げよう

パソコンでできることをさらに広げたい。
そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。
本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の紹介と、よく使う周辺機器の取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

1 周辺機器を使う前に

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことで、デバイスともいいます。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、パソコンが持っていない機能を広げることができます。
周辺機器には、パソコンのカバーを開けて、パソコンの中に取り付ける内蔵方式のものと、パソコン本体の周囲にあるコネクタや端子、スロットにつなぐ外付け方式のものがあります。

■内蔵方式のもの

- メモリ
- バッテリー

■外付け方式のもの

本製品のインターフェースに合った周辺機器をご利用ください。
周辺機器によっては、インターフェースなどの規格が異なることがあります。インターフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタや端子、スロットの形状などの規格のことです。
購入される際には、目的に合った機能を持ち、本製品に対応している周辺機器をお選びください。周辺機器が本製品に対応しているかどうかについては、その周辺機器のメーカーに確認してください。

参照 コネクタの仕様について「付録 5 各インターフェースの仕様」

お願い　周辺機器の取り付け／取りはずしにあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 5 周辺機器について」を確認してください。

本製品で使用できるおもな周辺機器は、次のとおりです。

- メモリ
  参照 メモリの増設『取扱説明書 1章 3 メモリを増設する』
- USB対応機器
  参照 USB対応機器「本章 2 USB対応機器を使う」
- 外部ディスプレイ
  参照 外部ディスプレイの接続「本章 3 外部ディスプレイの接続」
- マイクロホン
  参照 マイクロホンの接続「本章 4 - 1 マイクロホンを使う」
- ヘッドホン
  参照 ヘッドホンの接続「本章 4 - 2 ヘッドホンを使う」

2 USB対応機器を使う

USB（ユーエスビー）対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができます。
また、新しい周辺機器を接続すると、システムがドライバーの有無をチェックし、自動的にインストールを行うプラグアンドプレイに対応しています。
USB対応機器には次のようなものがあります。

- USB対応マウス
- USB対応プリンター
- USB対応スキャナー
- USBフラッシュメモリ　　など

本製品のUSBコネクタにはUSB2.0 対応機器とUSB1.1対応機器を取り付けることができます。
USB対応機器の詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い USB対応機器の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 5 - USB対応機器の操作にあたって」を確認してください。

USBの常時給電

＊UX/2＊シリーズのみ

アイコンが付いているUSBコネクタでは、パソコン本体の電源がOFFの状態（スリープ状態、休止状態、シャットダウン状態）でも、USBコネクタにUSBバスパワー（DC5V）を供給することができます。
本機能を利用して、USBに対応する携帯電話や携帯型デジタル音楽プレーヤーなどの外部機器の使用および充電ができます。
＊USBケーブルは本製品に含まれていません。別途ご使用の機器に対応したケーブルを準備してください。

なお、外部機器によっては本機能を使用できない場合があります。

お願い USBの常時給電について

- あらかじめ、「付録 1 - 5 - USBの常時給電について」を確認してください。

1 取り付け

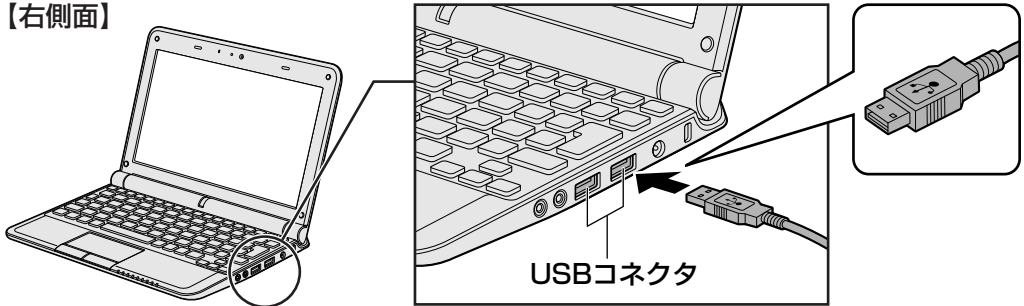
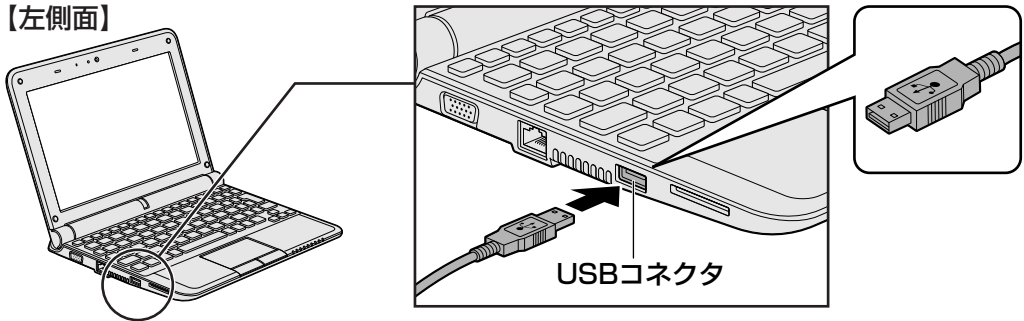
1 USBケーブルのプラグをUSB対応機器に差し込む

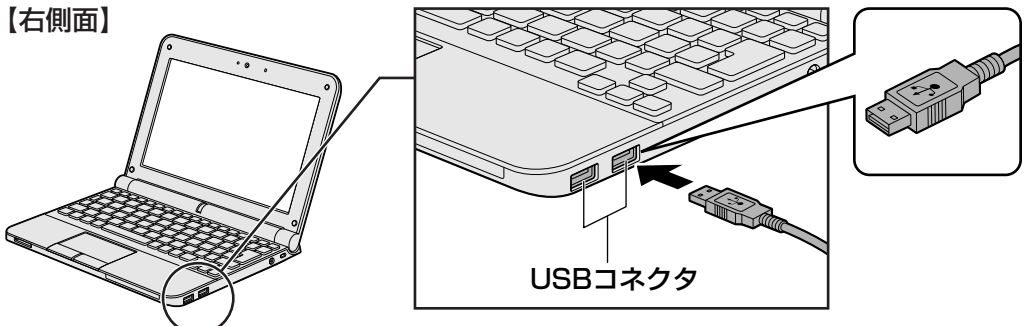
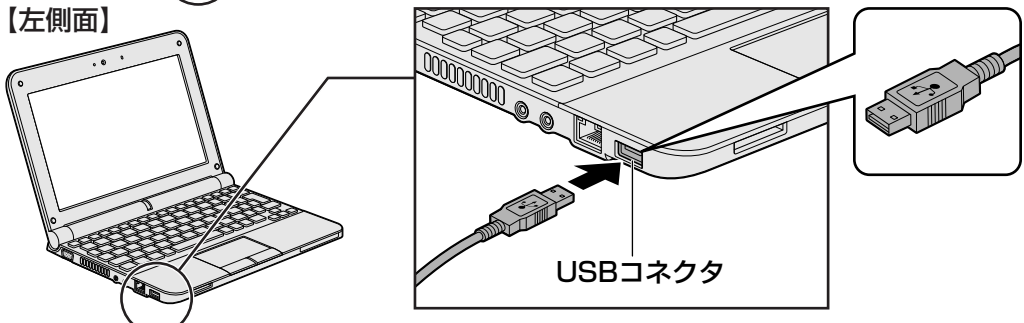
この手順が必要ない機器もあります。USB対応機器の詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 USBケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のUSBコネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。

■UX/2＊シリーズの場合

【右側面】

【左側面】

■UX/1＊シリーズの場合

【右側面】

【左側面】

2 取りはずし

1 USB対応機器の使用を停止する

①通知領域の［ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す］アイコン（ ）をクリックする

＊ 通知領域にこのアイコン（ ）が隠れている場合は、 をクリックすると一覧が表示されます。このアイコンが表示されないUSB対応機器は、次の手順は必要ありません。手順 2 に進んでください。

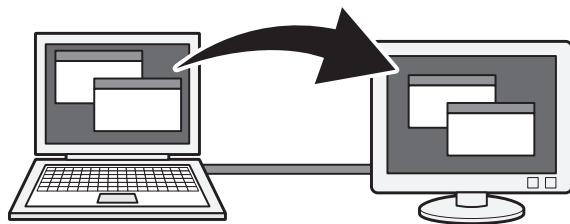
②表示されたメニューから［XXXX（取りはずすUSB対応機器）の取り出し］をクリックする

「'XXXX（取りはずすUSB対応機器）' はコンピューターから安全に取り外すことができます。」のメッセージが表示されます。

2 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

3 外部ディスプレイの接続

RGB（アールジービー）コネクタにケーブルを接続して、外部ディスプレイにWindowsのデスクトップ画面を表示させせることができます。

メモ

- 使用可能な外部ディスプレイは、本体液晶ディスプレイで設定している解像度により異なります。解像度に合った外部ディスプレイを接続してください。

1 パソコンに接続する

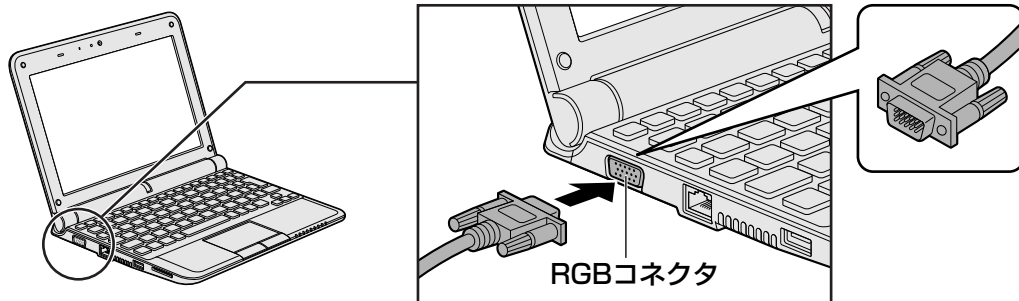
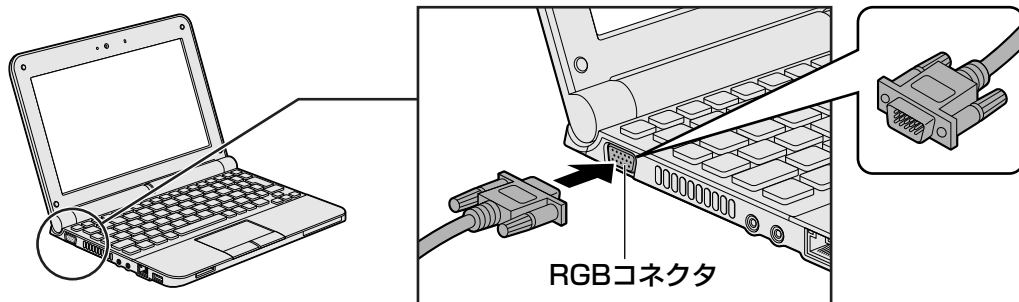
お願い 外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 5 - 外部ディスプレイ接続の操作にあたって」を確認してください。

外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

1 外部ディスプレイのケーブルのプラグをRGBコネクタに差し込む

本製品のRGBコネクタには固定用のネジ穴はありませんが、プラグに固定用のネジが付いているタイプの外部ディスプレイケーブルも使用できます。

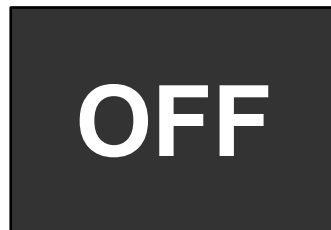
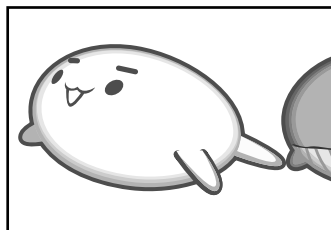
■UX/2＊シリーズの場合

■UX/1＊シリーズの場合

2 外部ディスプレイの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れる

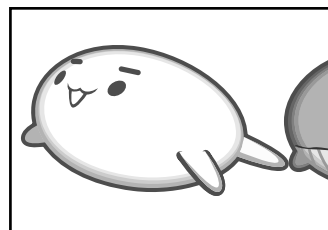
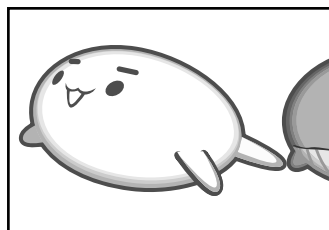
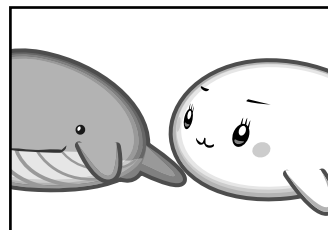
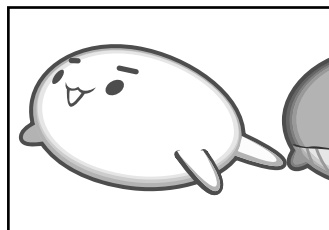
外部ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその外部ディスプレイを認識します。

2 表示を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には、次の表示方法があります。
表示方法は、表示装置の切り替えを行うことで変更できます。

■本体液晶ディスプレイだけに表示／外部ディスプレイだけに表示

いずれかの表示装置にのみ、デスクトップ画面を表示します。

■本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示

- **クローン表示**
  2つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。

- **拡張表示**＊
  2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用（拡張表示）します。

＊ Windows 7 Starter搭載のモデルでは、拡張表示の機能はご利用になれません。

外部ディスプレイに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、外部ディスプレイには表示されません。

メモ

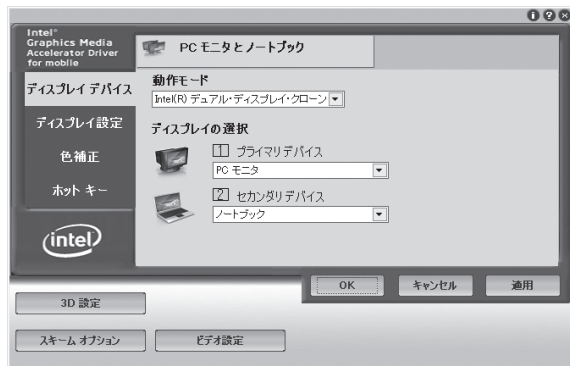
- 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイを同時表示させる場合は、同時表示の種類や設定に合った色数／解像度で表示されます。
- 表示を切り替えたとき、システムによって自動的に解像度が変更される場合があります。
  本体液晶ディスプレイだけに表示を切り替えると、元の解像度に戻ります。
- 外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

1 方法1－コントロールパネルで設定する

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 画面右上の［表示方法］で、［大きいアイコン］または［小さいアイコン］をクリックする

3 ［ Intel(R) GMA Driver for Mobile］をクリックする

4 ［ディスプレイデバイス］で、表示する装置を選択する

（表示例）

＊画面は外部ディスプレイを接続している場合の表示例です。

- **本体液晶ディスプレイだけに表示**
  ［ノートブック］をクリックしてください。
- **外部ディスプレイだけに表示**
  ［PCモニタ］をクリックしてください。

● **クローン表示**

2つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。

① [Intel(R) デュアル・ディスプレイ・クローン] をクリックする

② 表示に合わせた設定をする

項目	プライマリデバイス	セカンダリデバイス
本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイでクローン表示	ノートブック	PCモニタ
	PCモニタ	ノートブック

● **拡張表示***

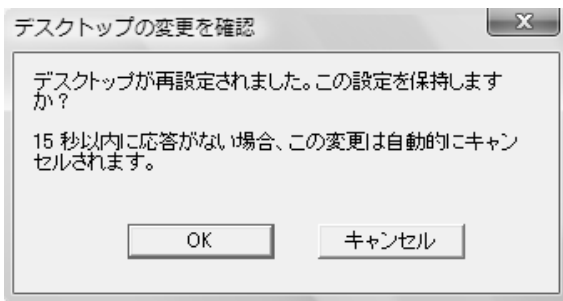
2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用できます。

＊ Windows 7 Starter搭載モデルでは、拡張表示の機能はご利用になれません。拡張表示の設定を行っても、本設定は反映されません。

メモ

● 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイをクローン表示に設定する際に、外部ディスプレイにノイズが発生した場合は、外部ディスプレイの解像度、色数、リフレッシュレートを下げてご使用ください。
設定は、クローン表示に設定したあと、［ディスプレイ設定］をクリックし、表示される画面で行います。

5 ［OK］ボタンをクリックする

次の画面が表示されます。

6 ［OK］ボタンをクリックする

2 方法2 − FN＋F5キーを使う

- **表示装置をLCD（本体液晶ディスプレイ）に戻す方法**
  現在の表示装置がLCD（本体液晶ディスプレイ）以外に設定されている場合、表示装置をLCDに戻すことができます。表示装置を選択する画面が表示されていない状態で、FN＋F5キーを3秒以上押し続けてください。
  表示装置に何も表示されず、選択する画面が表示されているか確認できない場合は、いったんキーボードから指をはなしてから、FN＋F5キーを3秒以上押し続けてください。

表示装置を選択する画面

FNキーを押したままF5キーを押すと、「TOSHIBA Flash Cards」の表示装置を選択する画面が表示されます。

＊画面はLCD（本体液晶ディスプレイ）と外部ディスプレイを接続した場合です。

（表示例）

上のカードは現在の表示装置を示しています。FNキーを押したまま、F5キーを押すたびに大きなアイコンが移動します。表示する装置が大きなアイコンに変わったところで、FNキーをはなすと表示装置が切り替わります。

①LCD........................本体液晶ディスプレイだけに表示
②LCD＋CRT ....本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時表示
③CRT........................外部ディスプレイだけに表示
本体液晶ディスプレイには何も表示されません。

3 パソコンから取りはずす

外部ディスプレイを取りはずすときは、「スリープ」や「休止状態」にせず、必ず電源を切ってください。

1 Windowsを終了させてパソコン本体の電源を切る

参照 電源の切りかた『セットアップガイド』

2 外部ディスプレイの電源を切る

3 RGBコネクタからケーブルを抜く

4 マイクロホンやヘッドホンを使う

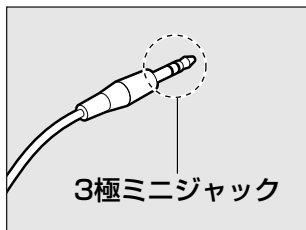
本製品には、マイクロホンやヘッドホンを接続できます。
マイクロホンやヘッドホンを使うと、音声ソフトや音声を使ったチャットを行うことができます。

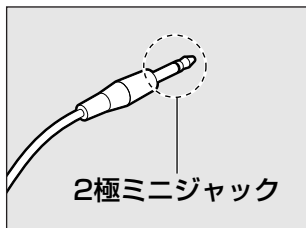
1 マイクロホンを使う

マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。本製品にはサウンド機能が搭載されています。

参照 サウンド機能について「1章 7 サウンド」

1 使用できるマイクロホン

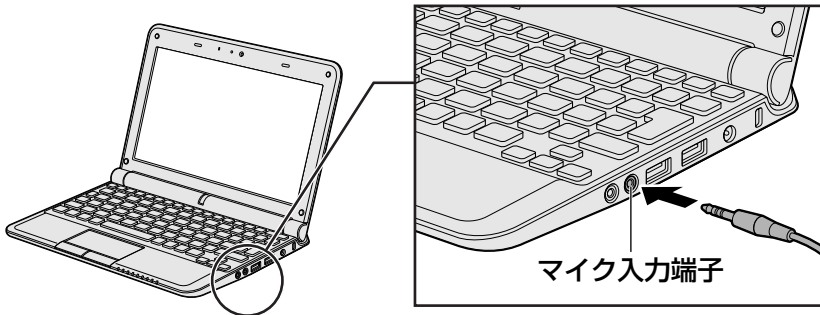
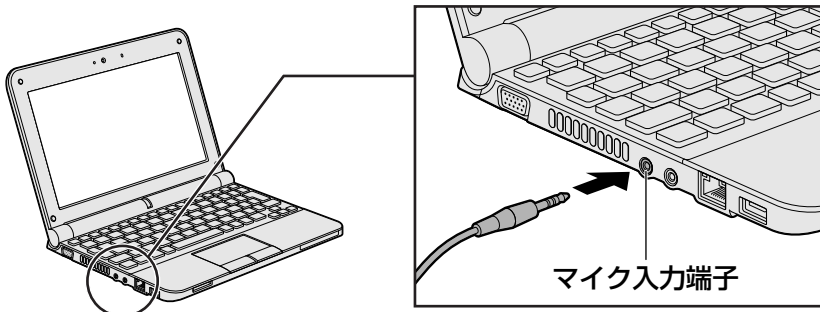
本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。

3極ミニジャック

- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは直径3.5mm3極ミニジャックタイプが使用できます。

- 直径3.5mm2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

2 接続する

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む

■UX/2＊シリーズの場合

■UX/1＊シリーズの場合

デバイス選択画面と［Realtek HD オーディオマネージャ］画面が表示されます。

2 デバイス選択画面で［マイク入力］をチェックし、［OK］ボタンをクリックする

［Realtek HD オーディオマネージャ］画面では、パソコン上で録音するときの音量を調整できます。引き続き設定を行う場合は、「本項 3 パソコン上で録音するときの音量調整」を確認してください。

3 パソコン上で録音するときの音量調整

接続したマイクから録音をする際の音量を調節できます。

設定方法

1. ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする
2. ［ ハードウェアとサウンド］をクリックする
3. ［ Realtek HD オーディオマネージャ］をクリックする
   ［Realtek HD オーディオマネージャ］画面が表示されます。
4. ［マイク］タブの［録音ボリューム］のつまみで音量を調節する
5. ［OK］ボタンをクリックする

4 取りはずし

1. マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜く

2 ヘッドホンを使う

ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続すると、音楽や音声を聞くことができます。
ヘッドホンのプラグは、直径3.5mmステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い ヘッドホンの操作にあたって

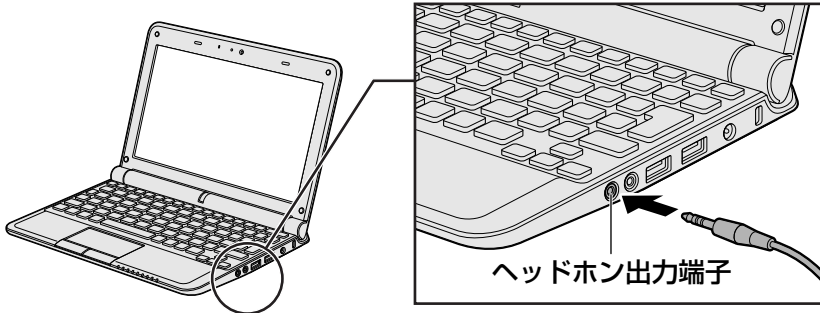
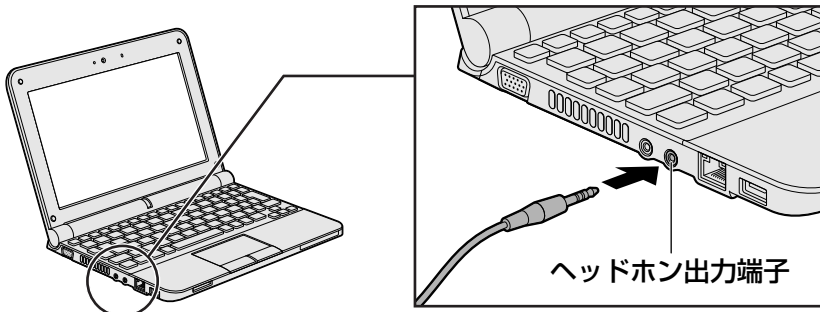
- あらかじめ、「付録 1 - 5 - ヘッドホンの操作にあたって」を確認してください。

本製品にはサウンド機能が搭載されています。
ヘッドホンの音量は FN + 3 と FN + 4 キー、またはWindowsの音量ミキサーで調節してください。

参照 「1章 7 サウンド」

1 接続する

1 ヘッドホンのプラグをヘッドホン出力端子に差し込む

■UX/2＊シリーズの場合

■UX/1＊シリーズの場合

デバイス選択画面と［Realtek HD オーディオマネージャ］画面が表示されます。

2 デバイス選択画面で［ヘッドフォン］をチェックし、［OK］ボタンをクリックする

［Realtek HD オーディオマネージャ］画面では、ヘッドホンを接続したときの音量などを調整することができます。

参照 操作方法「1章 7-1-3 Realtek HD オーディオマネージャについて」

2 取りはずし

1 ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜く

4章

バッテリー駆動で使う

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。
ここでは、充電や充電量の確認などについて説明しています。

1 バッテリーについて

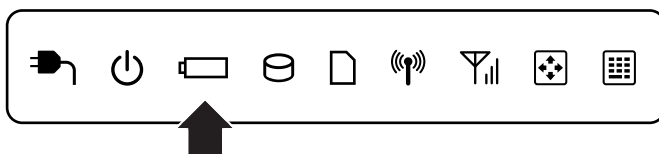
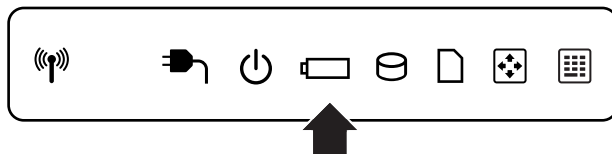
パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。
バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプターを接続しない状態）で使うことができます。
本製品を初めて使用するときは、バッテリーパックを充電してから使用してください。
バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプターを接続してバッテリーパックの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリーパックを取り付けてください。
バッテリーパックを指定する方法・環境以外で使用した場合には、発熱、発火、破裂するなどの可能性があり、人身事故につながりかねない場合がありますので、十分ご注意をお願いします。
『安心してお使いいただくために』や『取扱説明書』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 システムインジケーターで確認する

ACアダプターを使用している場合、Battery ▭ LEDが点灯します。

■UX/2＊シリーズの場合

■UX/1＊シリーズの場合

Battery LEDは次の状態を示しています。

緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要 参照 バッテリーの充電について「本節 2 バッテリーを充電する」
消灯	・ACアダプターが接続されていない ・バッテリーが接続されていない 上記のいずれにも当てはまらない場合は、バッテリー異常の可能性があります。東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

2 通知領域の［省電力］アイコンで確認する

通知領域の［バッテリー］アイコン（ ）の上にポインターを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

99% が使用可能です (電源に接続: 充電しています)
14:58
20XX/XX/XX

1ヵ月以上の長期にわたり、ACアダプターを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、Battery LEDや［バッテリー］アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヵ月に1度は再充電することを推奨します。

3 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量が少なくなると、次のように警告します。

- Battery LEDがオレンジ色に点滅する（バッテリーの残量が少ないことを示しています）
- バッテリーのアラームが動作する
  「電源オプション」で［プラン設定の変更］→［詳細な電源設定の変更］をクリックして表示される［詳細設定］タブの［バッテリ］→［バッテリ低下の通知］や［バッテリ切れの操作］で設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

  参照 省電力設定（電源オプション）について「本章 2 省電力の設定をする」

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。
①パソコン本体にACアダプターを接続し、充電する
②電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery LEDでも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックのほかに、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。
時計用バッテリーの充電は、ACアダプターを接続し電源を入れているとき（電源ON時）に行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。
時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながすWarning（警告）メッセージが出ます。

■充電完了までの時間

時計用バッテリーは、電源ON（Power ⏻ LEDが緑色に点灯）の状態にしておくと約24時間で充電が完了します。
実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2 バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い バッテリーを充電するにあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 6 - バッテリーを充電するにあたって」を確認してください。

1 充電方法

1 パソコン本体にACアダプターを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN LEDが緑色に点灯してBattery LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。
電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源のON／OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery LEDが緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中はBattery LEDがオレンジ色に点灯します。
DC IN LEDが消灯している場合は、電源が供給されていません。ACアダプター、電源コードの接続を確認してください。

メモ

- パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

■充電完了までの時間

バッテリー充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。
周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けているとき、アプリケーションを使用しているときは、充電完了まで時間がかかることがあります。
詳しくは、『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■バッテリー駆動時間

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。
詳しくは、『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■バッテリー駆動時の処理速度

高度な処理を要するソフトウェア（3Dグラフィックス使用など）を使用する場合は、十分な性能を発揮するためにACアダプターを接続してご使用ください。

■使っていないときの充電保持時間

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。
バッテリーの保持時間は、放置環境などによって異なります。
スリープを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリー駆動時は休止状態、またはハイブリッドスリープにすることをおすすめします。

参照 ハイブリッドスリープについて『セットアップガイド』

2 バッテリーを長持ちさせる

本製品のバッテリーをより有効に使うための工夫を紹介します。

バッテリーの機能低下を比較的遅くする方法

次の点に気をつけて使用すると、バッテリーの機能低下を比較的遅くすることができます。

- パソコンとACアダプターをコンセントに接続したままの状態で、パソコンを長時間使用しないときは、ACアダプターをコンセントからはずしてください。
- 1ヵ月以上の長期間バッテリーを使わない場合は、パソコン本体からバッテリーをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- おもにACアダプターを接続してパソコンを使用し、バッテリーパックの電力をほとんど使用しないなど、100%の残量近辺で充放電をくり返すとバッテリーの劣化を早める場合があります。
- 1ヵ月に1度は、ACアダプターをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。

バッテリー充電量を節約する方法

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする

参照 「1章 2 - 2 休止状態」

- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく

参照 「1章 2 - 3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」

- 省電力の電源プランを設定する

参照 「本章 2 省電力の設定をする」

3 バッテリーパックを保管する

バッテリーパックを保管するときは、次の説明をお読みください。
また、『安心してお使いいただくために』や『取扱説明書』にも、バッテリーパックを保管するときの重要事項が記述されています。あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

- 充電状態の電池を放置しておくと電池が劣化し、もう一度充電したときの容量が減少してしまいます。この劣化は、保存温度が高いほど早く進みます。
- バッテリーパックの電極（金属部分）がショートしないように、金属製ネックレス、ヘアピンなどの金属類と混在しないようにしてください。
- 落下したり衝撃がかかったりしないよう安定した場所に保管してください。

2 省電力の設定をする

1 電源オプション

「電源オプション」ではパソコンの電源を管理して、電力の消費方法を状況に合わせて変更することができます。
バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らして長い時間使用するように設定したり、電力を使ってパフォーマンスの精度を上げるように設定したりできます。
これらの電源設定を電源プランといいます。
「電源オプション」では、使用環境にあわせて設定された電源プランがあらかじめ用意されていますので、使用環境が変化したときに電源プランを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができます。
購入時には、次の電源プランが用意されています。

- **バランス**
  必要なときは電力を使ってパフォーマンスを最大にし、動作させていないときは電力を節約します。
- **eco**
  ＊東芝ecoユーティリティ搭載モデルのみ
  東芝の推奨する設定により、消費電力を抑えます。
  参照 「本項 1 - 役立つ操作集 - 東芝ecoユーティリティ」
- **省電力**
  パソコンの動作速度などのパフォーマンスを低下させ、消費電力を抑えます。バッテリー駆動のときにこのプランを使用すると、バッテリーが通常よりも長くもちます。
- **高パフォーマンス**
  パフォーマンスと応答速度を最大にします。バッテリー駆動のときにこのプランを使用すると、バッテリーが通常よりも早く消費されます。

＊「省電力」、「高パフォーマンス」は［追加のプランを表示します］の をクリックすると表示されます。

各電源プランの設定を変更したり、新しく電源プランを追加することもできます。詳しくは、「電源オプション」のヘルプをご覧ください。

1 起動方法

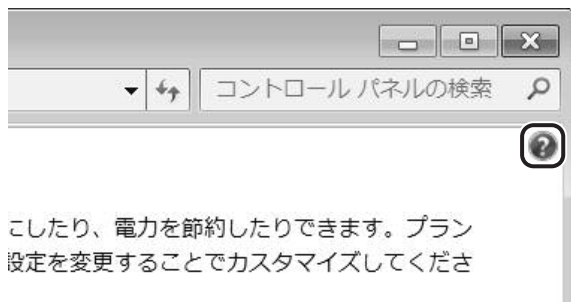
1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ システムとセキュリティ］→［ 電源オプション］をクリックする

「電源オプション」が起動します。

4章 バッテリー駆動で使う

ヘルプの起動方法

1 「電源オプション」を起動後、画面右上の ? ボタンをクリックする

2 表示された一覧から知りたい項目をクリックする

該当するページが表示されます。

役立つ操作集

東芝ecoユーティリティ

＊ 東芝ecoユーティリティ搭載モデルのみ

東芝の推奨する設定により、電源プランやディスプレイの明るさなどを自動的に調節して、消費電力を抑えます。
詳しくは、「東芝ecoユーティリティ」のヘルプをご覧ください。

- **起動方法**

  ①［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［ecoユーティリティ］をクリックする
  初回起動時は、［はじめにお読みください］画面が表示されますので、［同意する］をチェックし、［OK］ボタンをクリックしてください。

  ［TOSHIBA ecoユーティリティ］画面が表示され、通知領域にアイコン（ ）が表示されます。

- **ヘルプの起動方法**

  ①［TOSHIBA ecoユーティリティ］画面で［ヘルプ］ボタンを押す
  「TOSHIBA ecoユーティリティ」のヘルプが表示されます。

5 章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境やパスワードセキュリティを設定する方法について説明しています。

1 東芝HWセットアップ

「東芝HWセットアップ」を使い、Windows上でハードウェアの設定を変更できます。
複数のユーザーで使用する場合も、設定内容は全ユーザーで共通になります。

起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［HWセットアップ］をクリックする

［東芝HWセットアップ］画面が表示されます。

2 各タブで機能を設定し、［OK］ボタンをクリックする

［キャンセル］ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

ヘルプの起動方法

1 ［東芝HWセットアップ］画面上で、知りたい項目にポインターを置く

項目に対するヘルプが表示されます。

2 パスワードセキュリティ

本製品ではパスワードを設定できます。パスワードには大きく分けて次の3種類があります。

● **Windowsのログオンパスワード**

・Windowsにログオンするとき

・パスワード保護の設定をしたスクリーンセーバーを解除するとき

● **ユーザーパスワード、スーパーバイザーパスワード**

・電源を入れたときや休止状態から復帰するとき

ユーザーパスワードやスーパーバイザーパスワードを登録すると、電源を入れたときなどにパスワードの入力が必要になります。

● **HDDパスワード**

・ハードディスクを起動するとき

メモ

- スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードでは、違うパスワードを使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えてください。
- パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作は行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

お願い

- パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。
  パスワードの解除を東芝PCあんしんサポートに依頼する場合は有料です。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有料です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

パスワードとして使用できる文字

パスワードに使用できる文字は次のとおりです。
アルファベッドの大文字と小文字は区別されません。

<table>
<tr><th rowspan="3">使用できる文字</th><td>アルファベット（半角）</td><td>a b c d e f g h i j k l m n o p
q r s t u v w x y z</td></tr>
<tr><td>数字（半角）</td><td>0 1 2 3 4 5 6 7 8 9</td></tr>
<tr><td>記号の一部（半角）</td><td>- = [ ] ; ' , . / ` & ˜ （スペース）など</td></tr>
<tr><th>使用できない文字</th><td colspan="2">・全角文字（2バイト文字）
・日本語入力システムの起動が必要な文字
【例】漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号など
・記号の一部（半角）
【例】|（バーチカルライン）
¥（エン）など</td></tr>
</table>

パスワード登録時に警告メッセージが表示された場合は、登録しようとした文字列に使用できない文字が含まれています。この場合、もう1度別の文字列を入力し直してください。警告が表示されない場合も、上記「使用できない文字」に該当する文字は使用しないでください。また文字列は必ずキーボードから1文字ずつ直接入力してください。

1 ユーザーパスワード

「東芝HWセットアップ」でユーザーパスワードの設定や設定の変更ができます。
ユーザーパスワードは、BIOSセットアップの［セキュリティ］メニューでも設定できますが、「東芝HWセットアップ」で設定することをおすすめします。

1 ユーザーパスワードの登録

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［HWセットアップ］をクリックする

［東芝HWセットアップ］画面が表示されます。

2 ［パスワード］タブで［ユーザーパスワード］の［登録］をチェックする

パスワードを入力する画面が表示されます。

3 **［パスワードの入力］にパスワードを入力し、［OK］ボタンをクリックする**

パスワードは8文字以内で入力できます。

参照 パスワードに使用できる文字「本節 - パスワードとして使用できる文字」

パスワードは「＊＊＊＊＊（アスタリスク）」で表示されますので画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。
パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作を行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

4 **［パスワードの確認］に手順 3 で入力したパスワードをもう1度入力し、［OK］ボタンをクリックする**

5 **表示されるメッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする**

パスワードが登録されます。

パスワードを忘れてしまったときのために、必ずパスワードを控えてください。

2 ユーザーパスワードの削除

ユーザーパスワードを削除するには、次の手順を実行してください。

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［HWセットアップ］をクリックする**

2 **［パスワード］タブで［ユーザーパスワード］の［未登録］をチェックする**

パスワードを入力する画面が表示されます。

3 **［パスワードの入力］にパスワードを入力し、［OK］ボタンをクリックする**

パスワードが削除されます。
パスワードの入力エラーの場合は、もう1度手順 2 から操作を行ってください。
入力エラーが3回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度手順 1 から削除の操作を行ってください。

4 **表示されたメッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする**

3 ユーザーパスワードの変更

ユーザーパスワードを変更したい場合は、ユーザーパスワードを削除してから、新たに登録してください。

2 スーパーバイザーパスワード

「スーパーバイザーパスワードユーティリティ」で、Windows上からスーパーバイザーパスワードの設定や設定の変更ができます。
スーパーバイザーパスワードは、BIOSセットアップの［セキュリティ］メニューでも設定できますが、「スーパーバイザーパスワードユーティリティ」で設定することをおすすめします。

メモ

- スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードでは、違うものを使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えてください。
- パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作を行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

1 「東芝パスワードユーティリティ」の起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［ファイル名を指定して実行］をクリックする

2 「C:¥Program Files¥TOSHIBA¥Utilities¥SVPWUTIL.exe」と入力する

3 ［OK］ボタンをクリックする

詳しくは、「README.HTM」を参照してください。

2 「README.HTM」の起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［ファイル名を指定して実行］をクリックする

2 「C:¥Program Files¥TOSHIBA¥Utilities¥SVPWTool¥README.HTM」と入力する

3 ［OK］ボタンをクリックする

3 パスワードの入力

電源を入れたとき／休止状態から復帰するとき

パスワードが設定されている場合、パソコンまたはBIOSセットアップ起動時にパスワード入力画面が表示されます。
この場合は、次の手順を行ってパソコンまたはBIOSセットアップを起動します。

1 設定したとおりにパスワードを入力し、ENTERキーを押す

Arrow Mode LED、Numeric Mode LEDは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。
パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

1 パスワードを忘れてしまった場合

パスワードを忘れてしまった場合は、東芝PCあんしんサポートに相談してください。パスワードの解除を東芝PCあんしんサポートに依頼する場合は、有料です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

4 HDDパスワード

＊この操作は、「オンラインマニュアル（本書）」を参照しながら実行することはできません。必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

HDDパスワードは、ハードディスクを保護するセキュリティ機能です。
HDDパスワードの登録、削除、変更などの設定は、BIOSセットアップで行います。

1 注意事項

登録したパスワードの内容は、メモをとるなどして、安全な場所に保管しておくことを強くおすすめします。

お願い

- 万が一登録したパスワードを忘れた場合、修理・保守対応ではパスワードを解除できません。この場合、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、ハードディスクドライブの交換対応となります。この場合、有料での交換となります。
  ハードディスクドライブが使用できなくなったことによる、お客様またはその他の個人や組織に対して生じた、いかなる損失に対しても、当社はいっさい責任を負いません。
  HDDパスワードの設定については、この点を十分にご注意いただいた上でご使用ください。

2 HDDパスワードの種類

HDDパスワードは、HDDユーザーパスワードとHDDマスターパスワードの2つを設定することが可能です。

■HDDユーザーパスワード

各パソコンの使用者自身が設定することを想定したパスワードです。
HDDマスターパスワードを削除すると、同時にHDDユーザーパスワードも削除されます。

■HDDマスターパスワード

管理者などがパソコン本体の環境設定を管理／保守するために設定することを想定したパスワードです。
HDDマスターパスワードはHDDユーザーパスワードの代わりに使えます。HDDユーザーパスワードを忘れた場合でも、HDDマスターパスワードを入力してハードディスクドライブにアクセスできます。
なお、HDDマスターパスワードのみを登録することはできません。

HDDユーザーパスワードとHDDマスターパスワードの登録、削除方法は同じです。以降は、HDDユーザーパスワードの設定を例に説明しています。

3 HDDパスワードの登録

HDDマスターパスワードの項目は、BIOSセットアップの「HDD/SSDパスワードモード」が「User+Master」の場合のみ表示されます。
「User+Master」の場合は、HDDマスターパスワードを設定し、続けてHDDユーザーパスワードの設定を行います。

1 電源スイッチを押し、[dynabook] 画面が表示されている間に F2 キーを数回押して、BIOSセットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。
パスワードを入力して ENTER キーを押してください。

2 [セキュリティ] メニューを表示する

3 カーソルバーを [HDD/SSDパスワードモード] の下にある [ユーザーパスワード] の [Enter] に合わせ、ENTER キーを押す

カーソルが「新しいパスワードを入力して下さい。」に移動し、パスワードが入力できる状態になります。

4 パスワードを入力する

パスワードは8字以内で入力します。

参照 ユーザーパスワードに使用できる文字「本節 - パスワードとして使用できる文字」

パスワードは1文字ごとに［■］が表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

5 ENTER キーを押す

カーソルが「新しいパスワードを確認して下さい。」に移動します。

6 パスワードを入力する

確認のため、手順 4 と同じパスワードをもう1度入力してください。

7 ENTER キーを押す

［セットアップ通知］画面が表示されます。
2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、［セットアップ警告］画面が表示されます。ENTER キーを押して、手順 4 からやり直してください。

8 ENTER キーを押す

パスワードが設定され、［HDD/SSDパスワード］に「設定」と表示されます。

9 ［終了］メニューでカーソルバーを［変更を保存して終了する］に合わせ、ENTER キーを押す

確認の画面が表示されます。

10 カーソルバーを［はい］に合わせ、ENTER キーを押してBIOSセットアップを終了する

設定した内容が保存され、Windowsが起動します。

4 HDDパスワードの削除

1 電源スイッチを押し、［dynabook］画面が表示されている間に F2 キーを数回押して、BIOSセットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。
パスワードを入力して ENTER キーを押してください。

2 ［セキュリティ］メニューを表示する

3 **カーソルバーを［HDD/SSDパスワードモード］の下にある［ユーザーパスワード］の［Enter］に合わせ、ENTERキーを押す**

カーソルが「現在のパスワードを入力して下さい。」に移動し、パスワードが入力できる状態になります。

4 **登録してあるパスワードを入力する**

入力すると1文字ごとに［■］が表示されます。

5 **ENTERキーを押す**

カーソルが「新しいパスワードを入力して下さい。」に移動します。
入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、手順 4 からやり直してください。

6 **ENTERキーを押す**

ここでは何も入力しません。カーソルが「新しいパスワードを確認して下さい。」に移動します。

7 **ENTERキーを押す**

ここでは何も入力しません。［セットアップ通知］画面が表示されます。

8 **ENTERキーを押す**

パスワードが削除され、［HDD/SSDパスワード］に「クリア」と表示されます。

9 **［終了］メニューでカーソルバーを［変更を保存して終了する］に合わせ、ENTERキーを押す**

確認の画面が表示されます。

10 **カーソルバーを［はい］に合わせ、ENTERキーを押してBIOSセットアップを終了する**

設定した内容が保存され、Windowsが起動します。
［HDD/SSDパスワードモード］で［User+Master］を選択した場合は、HDDマスターパスワードの削除を行うと、同時にHDDユーザーパスワードも削除されます。
HDDユーザーパスワードのみを削除することはできません。

5 HDDパスワードの変更

1 電源スイッチを押し、[dynabook] 画面が表示されている間に F2 キーを数回押して、BIOSセットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。
パスワードを入力して ENTER キーを押してください。

2 [セキュリティ] メニューを表示する

3 カーソルバーを [HDD/SSDパスワードモード] の下にある [ユーザーパスワード] の [Enter] に合わせ、ENTER キーを押す

カーソルが「現在のパスワードを入力して下さい。」に移動し、パスワードが入力できる状態になります。

4 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに [■] が表示されます。

5 ENTER キーを押す

カーソルが「新しいパスワードを入力して下さい。」に移動します。
手順 4 で入力したパスワードが正しくない場合は、手順 4 からやり直してください。

6 新しいパスワードを入力し、ENTER キーを押す

パスワードは1文字ごとに [■] が表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。
カーソルが「新しいパスワードを確認して下さい。」に移動します。

7 手順 6 で入力したパスワードをもう1度入力し、ENTER キーを押す

[セットアップ通知] 画面が表示されます。
2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、[セットアップ警告] 画面が表示されます。ENTER キーを押して、手順 6 からやり直してください。

8 ENTER キーを押す

新しいパスワードが登録され、[HDD/SSDパスワード] に「設定」と表示されます。

9 ［終了］メニューでカーソルバーを［変更を保存して終了する］に合わせ、ENTER キーを押す

確認の画面が表示されます。

10 カーソルバーを［はい］に合わせ、ENTER キーを押してBIOSセットアップを終了する

設定した内容が保存され、Windowsが起動します。

6 HDDパスワードの入力

HDDパスワードが設定されている場合、電源を入れると「内蔵HDD/SSDのユーザーパスワードの入力」と表示されます。
この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

1 設定したとおりにHDDパスワードを入力し、ENTER キーを押す

Numeric Mode ▦ LEDは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。
HDDパスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

メモ

- ユーザーパスワードとHDDパスワードの両方を設定してある場合は、ユーザーパスワード→HDDパスワードの順に認証が求められます。ただし、ユーザーパスワードとHDDパスワードが同一の文字列の場合は、ユーザーパスワードの認証終了後、HDDパスワードの認証は省略されます。

6章

パソコンの動作がおかしいときは

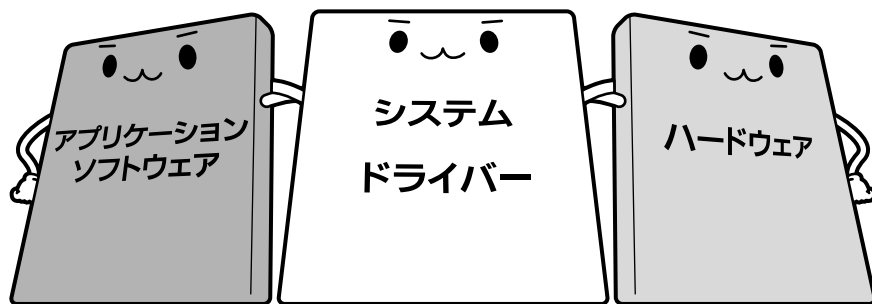
パソコンの操作をしていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。
「dynabook.com」で情報を調べる方法なども紹介しています。
トラブルが起こったときは、あわてずに、この章を読んで、解消方法を探してみてください。

1 トラブルを解消するまでの流れ

お使いのパソコンに起こったトラブルについて、解決方法を見つけていきましょう。

1 トラブルの原因をつき止めよう

パソコンに起こるトラブルは、その原因がどこにあるかによって解決策が異なります。
そのために、パソコンの構造をある程度知っておくことが必要です。
ここでは、パソコンの構成と、それぞれの構成部分で起こるトラブルの例、その解決方法を紹介します。

■パソコンを構成する3つの部分

- **アプリケーションソフトウェアとは**
  メールやインターネットは、アプリケーションソフトウェアの機能です。Word（文書作成ソフト）やExcel（表計算ソフト）、ウイルスチェックソフトもアプリケーションソフトウェアの代表的なものです。それぞれ製造元が異なります。
- **システム、ドライバーとは**
  システムは、オペレーティングシステム、OSともいい、パソコンを動かすための基本的な働きをします。本製品のシステムはWindows 7です。
  ドライバーは、周辺機器とシステムを連携する役割をします。ドライバーがないと、周辺機器は使用できません。代表的なドライバーに、ディスプレイドライバーやサウンドドライバー、マウスドライバーなどがあります。基本的なドライバーはシステムが標準装備していますが、周辺機器製品に専用のドライバーが付属している場合もあります。
- **ハードウェアとは**
  バッテリーやACアダプターはもちろん、画面（ディスプレイ）、キーボード、ハードディスク、CPUなど、パソコン本体を指します。

パソコンはこれらの高度な技術の集合体です。トラブルの原因がそれぞれの製造元にしかわからない場合も多くあります。トラブルの症状に合わせた対処をすることが解決への早道です。
トラブルの解決には、最初に原因の切り分けを行います。一般的にはアプリケーションソフトウェア→システム（OS）、ドライバー→パソコン本体の順にチェックします。

2 トラブル対処法

トラブルが発生したときの解決手順を紹介します。

STEP1 Q&Aを読む

本書では、トラブルの解決方法をQ&A形式で説明しています。
また、『セットアップガイド』などにもQ&Aが記載されているので、あわせて読んでください。

STEP2 付属のマニュアルを読む

本製品には目的別に複数のマニュアルがあります。
本書以外のマニュアルも読んでください。

STEP3 サポートのサイトで調べる

本製品独自のサポートサイト「あなたのdynabook.com」へ接続すると、各種サポート情報から解決方法を探すことができます。
「あなたのdynabook.com」では、ご利用のパソコンの「よくあるご質問 FAQ」、デバイスドライバーや修正モジュールのダウンロード、ウイルス・セキュリティ情報などをご覧になれます。
ご利用のパソコンに関する情報だけが表示されるので、目的の情報を簡単に探すことができます。また、サポート窓口や修理についても案内しています。

参照 あなたのdynabook.com『東芝PCサポートのご案内』

それでもトラブルが解消しない場合は、お問い合わせください。
本製品に用意されているアプリケーションのお問い合わせ先は『取扱説明書 付録 2 お問い合わせ先』で確認してください。

2 Q&A集

ここに掲載しているQ&A集のほかに、『セットアップガイド』にもQ&A集があります。
目的の項目が見つからないときは、『セットアップガイド』も参照してください。

1 画面／表示

Q しばらく放置したら、画面が真っ暗になった

A 省電力機能が働いた可能性があります。

しばらくタッチパッドやキーボードを操作しないと、画面に表示される内容が見えなくなる場合があります。これは省電力機能が動作したためで、故障ではありません。実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。

SHIFT キーを押すか、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。

外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

A 表示装置が適切に設定されていない可能性があります。

FN＋F5 キーを3秒以上押し続けてください。表示装置が本体液晶ディスプレイに切り替わります。

参照 詳細について「3章 3-2-2 方法2－FN＋F5キーを使う」

Q 外部ディスプレイを接続した状態で、パソコンをスリープや休止状態から復帰したとき、本体液晶ディスプレイに何も表示されない

A 外部ディスプレイに、画面表示が切り替わっている可能性があります。

外部ディスプレイの電源を入れて確認してください。パソコン画面が表示されていた場合は、本体液晶ディスプレイに表示を切り替えてください。

参照 詳細について「3章 3-2 表示を切り替える」

Q 画面が薄暗く、よく見えない

A FN＋F7 キーを押して、本体液晶ディスプレイ（画面）の輝度を明るくしてください＊1

FN＋F6 キーを押すと、逆に、本体液晶ディスプレイの輝度は暗くなります。

FN キーで本体液晶ディスプレイの輝度を変更した場合、パソコンの電源を切ったり再起動したりすると設定はもとに戻ります。

＊1 この設定は、外部ディスプレイには反映されません。

A 本体液晶ディスプレイの輝度が低く設定されている可能性があります。

［電源オプション］には、本体液晶ディスプレイの輝度を落として消費電力を節約する機能があります。この機能で画面の明るさレベルを下げると、画面が暗くなります。詳しくは、［電源オプション］のヘルプを参照してください。
次の手順で設定を変更してください。*1

① ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする
② ［ システムとセキュリティ］→［ 電源オプション］をクリックする
③ 利用するプランを選択し、［プラン設定の変更］をクリックする
④ ［プランの明るさを調整］を設定する
［バッテリ駆動］と［電源に接続］をそれぞれ設定してください。
⑤ ［変更の保存］ボタンをクリックする

＊1 この設定は、外部ディスプレイには反映されません。

2 キーボード

Q ポインターが輪の形をしている間にキーを押しても反応がない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインターが輪の形（ ）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、キーボードやタッチパッドなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

Q キーボードから文字を入力しているときにカーソルがとんでしまう

A 文字を入力しているときに誤ってタッチパッドに触れると、カーソルがとんだり、アクティブウィンドウが切り替わってしまうことがあります。

FN＋F9キーを押して、タッチパッドを無効に切り替えてください。

Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった

A 飲み物など液体がこぼれて内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。

もし、液体がパソコン内部に入ったときは、ただちに電源を切り、ACアダプターとバッテリーパックを取りはずして、東芝PCあんしんサポートにご相談ください。

3 タッチパッド／マウス

＊マウスは、別売りです。

Q クリックしても反応がない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインターが輪の形（◎）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、タッチパッド、マウス、キーボードなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

A マウスが正しく接続されていない可能性があります。

マウスとパソコン本体が正しく接続されていないと、マウスの操作はできません。マウスのプラグを正しく接続してください。

A タッチパッドのみ操作を受け付けない場合、タッチパッドが無効に設定されている可能性があります。

FN＋F9キーを押して、タッチパッドを有効に切り替えてください。

A USB対応のマウスを接続したときに、タッチパッドによる操作が自動的に無効になるように設定されている可能性があります。

次の手順でタッチパッドを有効に切り替えてください。

① [スタート] ボタン（ ）→ [コントロールパネル] をクリックする

② [ハードウェアとサウンド] → [マウス] をクリックする

[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。

③ [デバイス設定] タブで [USBマウス接続時に内蔵ポインティングデバイスを無効にする。] のチェックをはずす

④ [OK] ボタンをクリックする

参照 「1章 3-2-1 [マウスのプロパティ] の起動方法」

Q ダブルクリックがうまくいかないので、速度を変更したい

A 次の手順で、ダブルクリックの速度を調節してください。

① [スタート] ボタン（ ）→ [コントロールパネル] をクリックする

② [ハードウェアとサウンド] → [マウス] をクリックする

[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。

③ [ボタン] タブで [ダブルクリックの速さ] のスライダーバーを左右にドラッグする

④ [OK] ボタンをクリックする

Q ポインターの速度を調節したい

A 次の手順でポインターの速度を変更してください。

① [スタート] ボタン（ ）→ [コントロールパネル] をクリックする

② [ハードウェアとサウンド] → [マウス] をクリックする
[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。

③ [ポインターオプション] タブで [速度] のスライダーバーを左右にドラッグする

④ [OK] ボタンをクリックする

Q レーザーマウスの反応がおかしい

A 光の反射が正しく認識されていない可能性があります。

反射しにくい素材の上で使うと正しくセンサーが働かず、ポインターがうまく動きません。次のような場所では動作が不安定になる場合があります。

- 光沢のある表面（ガラス、鏡など）

A 平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。

マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。

Q 光学式マウスの反応がおかしい

A 光の反射が正しく認識されていない可能性があります。

反射しにくい素材の上で使うと正しくセンサーが働かず、ポインターがうまく動きません。次のような場所では動作が不安定になる場合があります。

- 光沢のある表面（ガラス、研磨した金属、ラミネート、光沢紙、プラスチックなど）
- 画像パターンの変化が非常に少ない表面（人工大理石、新品のオフィスデスクなど）
- 画像パターンの方向性が強い表面（正目の木材、立体映像の入ったマウスパッドなど）

明るめの色のマウスパッドや紙など、光の反射を認識しやすい素材を使ったものの上で使用してください。
光学式マウスに対応したマウスパッドの使用を推奨します。
光学式マウスに対応していないものやマウスパッドの模様によっては、正常に動作しない場合があります。

A 平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。

マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。

4 その他

Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい

A 次の操作を行ってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対するパソコン本体の方向を変える
- パソコン本体をテレビ、ラジオから離す
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- コンセントと機器の電源プラグとの間に市販のフィルターを入れる
- 受信機に屋外アンテナを使う
- 平行フィーダを同軸ケーブルに替える

Q 「デバイスマネージャー」に有線LANデバイスが表示されない

A LANケーブルを接続していない状態では、「デバイスマネージャー」の「ネットワークアダプター」に有線LANデバイスが表示されない場合があります。

LANケーブルを接続してください。「デバイスマネージャー」の「ネットワークアダプター」に、有線LANデバイスが表示されます。

付録

本製品の機能を使用するにあたってのお願いや技術基準適合などについて記しています。

1 ご使用にあたってのお願い

本書で説明している機能をご使用にあたって、知っておいていただきたいことや守っていただきたいことがあります。次のお願い事項を、本書の各機能の説明とあわせて必ずお読みください。

1 パソコン本体について

タッチパッドの操作にあたって

- タッチパッドを強く押さえたり、ボールペンなどの先の鋭いものを使わないでください。
  タッチパッドが故障するおそれがあります。

2 ハードディスクドライブについて

操作にあたって

- Disk ⊖ LEDが点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万が一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にCD／DVDなどに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、CD／DVDなどに保存した内容の損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカー、テレビ、磁気ブレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

東芝HDDプロテクションの使用にあたって

- 東芝HDDプロテクションは、落下・振動・衝撃およびその前兆を検出するとHDDのヘッドを退避させ、ヘッドとメディアの接触によってHDDが損傷する危険性を軽減するものです。ただしその効果を保証するものではありません。故障などの際は当社保証規定に従って修理いたします。また、故障などによりHDDの記憶内容が変化・消失する場合がありますが、これによる損害、および本製品の使用不能から生じた損害については当社はその責任をいっさい負いません。大切なデータは必ずお客様の責任のもと普段からこまめにバックアップされるようお願いします。

3 有線LANについて

LANケーブルの使用にあたって

- LANケーブルは市販のものを使用してください。
- LANケーブルをパソコン本体のLANコネクタに接続した状態で、LANケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。LANコネクタが破損するおそれがあります。
- LANインターフェースを使用するとき、Fast Ethernet（100BASE-TX）は、カテゴリ5（CAT5）以上のケーブルを使用してください。
  Ethernet（10BASE-T）は、カテゴリ3（CAT3）以上のケーブルが使用できます。

4 無線LANについて

無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。
  また、パソコンとの間を金属板で遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属性のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線LANは無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、「付録 6 無線LANについて」を確認してください。
- 本製品の無線LANを使用できる地域については、「付録 6 無線LANについて」を確認してください。

付録

無線LANの操作にあたって

- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。
- アドホックネットワーク機能で、設定されているネットワーク名へのネットワーク接続が不可能になる場合があります。
  この場合、再度ネットワーク接続を可能にするには、同じネットワーク名で接続されていたコンピューターすべてに対して、新たに別のネットワーク名で設定を行う必要があります。

5 周辺機器について

周辺機器の取り付け／取りはずしについて

- 取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。3章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。
  - ・ホットインサーションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから作業を行ってください。ホットインサーションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
  - ・適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
  - ・ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
  - ・極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
  - ・静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
  - ・本書および『取扱説明書』で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
  - ・作業時に使用するドライバーは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
  - ・本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
  - ・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向を合わせてください。
  - ・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

USB対応機器の操作にあたって

- 電源供給を必要とするUSB対応機器を接続する場合は、USB対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB対応機器を使用するには、システム（OS）、および機器用ドライバーの対応が必要です。
- すべてのUSB対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべてのUSB対応機器の動作は保証できません。
- USB対応機器を接続したままスリープまたは休止状態にすると、復帰後USB対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

❏ 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- USBフラッシュメモリやUSB接続のハードディスクドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データを消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

❏ USBの常時給電について

- 本機能は初期設定では無効になっておりますので、使用するには「東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティ」で本機能を有効にする必要があります。
- 本機能を「東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティ」で有効にした際、ϟ アイコンが付いているUSBコネクタに接続しているUSB周辺機器が正しく動作しない場合があります。この場合、本機能を「東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティ」で無効に設定してください。
- 本機能を利用しての充電は、専用充電器で充電する場合と比較して、より多くの充電時間が必要になることがあります。
- 常時給電を有効にしている場合は、電源OFFの状態でもバッテリーが消費されます。バッテリー駆動時間や休止状態の保持時間が短くなるので、ACアダプターを接続して使用することをおすすめします。
- USB対応機器の給電中にパソコン本体の電源を入れると、USB対応機器が正常に認識されない場合があります。この場合は、1度USB対応機器を取りはずしてから再接続してください。
- USB対応機器の給電中にパソコン本体の電源を切ると、正常に充電できない場合があります。この場合は、1度USB対応機器を取りはずしてから再接続を試みてください。
- パソコン本体の電源ON/OFFと連動するUSBバスパワー（DC5V）連動機能を持つ外部機器は、常に動作状態になることがあります。
- 常時給電に対応したUSBコネクタに接続された外部機器の使用電流が過大の場合、安全性確保のためUSBバスパワー（DC5V）の供給を停止させることがあります。
- 「東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティ」の設定で、本機能が有効に設定されていると、常時給電に対応したUSBコネクタでは「USB WakeUp 機能」*1 が機能しません。常時給電に対応したUSBコネクタで「USB WakeUp 機能」を使用する場合は、本機能を無効に設定してください。

  ＊1 USB WakeUp機能とは、USBコネクタに接続した外部機器によってパソコン本体をスリープ状態から復帰させる機能です。本機能は、すべてのUSBコネクタで有効です。

❏ 東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティについて

「東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティ」は、USBの常時給電に対応しているUSBコネクタの設定を行うことができます。

- 起動方法

  ①［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［USB スリープ アンド チャージ］をクリックする
- USBの常時給電の有効／無効

  「東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティ」は、常時給電の機能を有効／無効に設定できます。

付録

外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- 必ず、DVDなどを再生する前に、表示装置の切り替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
  - ・データの読み出しや書き込みをしている間
  - ・通信を行っている間
- クローン表示にしているときにDVDを再生させると、画像がコマ落ちをすることがあります。この場合は表示解像度を下げるか、本体液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのどちらかだけに表示するように設定してください。

ヘッドホンの操作にあたって

- 次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
  - ・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
  - ・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

6 バッテリーについて

バッテリーを充電するにあたって

- バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは5～35℃の室温で充電してください。

社団法人　電子情報技術産業協会の「バッテリ関連Q&A集」について
http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/battery/menu1.htm

7 Webカメラについて

Webカメラを使用するにあたって

- Webカメラを太陽に直接向けないでください。
- Webカメラのレンズ部分に触れたり、強く押したりしないでください。画質が低下する原因となります。
  レンズ部分が汚れた場合は、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布でふいてください。

8 CD／DVDの書き込みに使用するアプリケーション

オプションの外付けのCD／DVDドライブを接続して、CD／DVDに書き込む際には、本製品に付属の次のアプリケーションをご使用ください。

- 「TOSHIBA Disc Creator」

購入時の状態ではインストールされていません。
［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］からインストールしてください。

「TOSHIBA Disc Creator」を使用するときは、ヘルプを参照してください。

2 記録メディアについて

記録メディアを使う前に、次の内容をよく読んでください。

1 メディアカードを使う前に

1 メディアカードの操作にあたって

- ブリッジメディア LEDが点灯中は、電源を切ったり、メディアカードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データやメディアカードが壊れるおそれがあります。
- メディアカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しくセットされていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、メディアカードが壊れるおそれがあります。
- スリープ中は、メディアカードを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。
- メディアカードのコネクタ部分（金色の部分）には触れないでください。静電気で壊れるおそれがあります。
- メディアカードを取り出す場合は、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。データが消失したり、メディアカードが壊れるおそれがあります。
- パソコン本体を持ち運ぶときは、必ずブリッジメディアスロットからメディアカードを取り出してください。ブリッジメディアスロットやメディアカードが破損するおそれがあります。
- メディアカードをパソコン本体にセットしているとき、メディアカードがブリッジメディアスロットから少し出た状態になります。メディアカードに衝撃をあたえたり、無理に押し込まないでください。ブリッジメディアスロットやメディアカードが破損するおそれがあります。

2 SDメモリカードを使う前に

- ブリッジメディアスロットにminiSDメモリカードをセットするときは、必ずSDメモリカードサイズのminiSDメモリカード用のアダプターを装着した状態で行ってください。
  microSDメモリカードをセットするときは、必ずSDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターを装着した状態で行ってください。miniSDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターは使用できません。
- ブリッジメディアスロットからminiSDメモリカード／microSDメモリカードを取りはずすときは、必ずminiSDメモリカードまたはmicroSDメモリカード用のアダプターに装着したままの状態で行ってください。
- すべてのSDメモリカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのSDメモリカードの動作保証はできません。
- SDメモリカードは、SDMIの取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。
  そのため、ほかのパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMIとはSecure Digital Music Initiativeの略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。

付録

- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SDメモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐSDMIに準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

SDメモリカードのフォーマットについて

- Windows上（[コンピューター] 画面）でSDメモリカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤーなどほかの機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのSDメモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。1度使用したSDメモリカードを再フォーマットする場合は注意してください。

3 マルチメディアカードを使う前に

- すべてのマルチメディアカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのマルチメディアカードの動作は保証できません。
- マルチメディアカードの詳しい使いかたなどについては『マルチメディアカードに付属の説明書』を確認してください。

付録

2 記録メディアの廃棄・譲渡について

記録メディア（CD、DVD、USBフラッシュメモリ、メディアカードなど）を廃棄・譲渡する際には、書き込まれたデータが流出しないよう、適切な方法で消去することをおすすめします。初期化、削除、消去などの操作などを行っても、データの復元ツールで再生できる場合もありますので、十分ご確認ください。

データ消去のための専用ソフトや、記録メディア専用のシュレッダーも販売されています。

3 お客様登録の手続き

パソコンやアプリケーションを使用するときは、自分が製品の正規の使用者（ユーザー）であることを製品の製造元へ連絡します。これを「お客様登録」または「ユーザー登録」といいます。
お客様登録は、パソコン本体、使用するアプリケーションごとに行い、方法はそれぞれ異なります。
お客様登録を行わなくても、パソコンやアプリケーションを使用できますが、お問い合わせをいただくときにお客様番号（「ユーザーID」など、名称は製品によって異なります）が必要な場合や、お客様登録をしているかたへは製品に関する大切な情報をお届けする場合がありますので、使い始めるときに済ませておくことをおすすめします。

1 東芝ID（TID）お客様登録のおすすめ

東芝では、お客様へのサービス・サポートのご提供の充実をはかるために東芝ID（TID）のご登録をおすすめしております。
サービス内容は、『東芝PCサポートのご案内』を確認してください。

詳しくは、次のアドレス「東芝ID（TID）とは？」をご覧ください。
https://room1048.jp/onetoone/info/about_tid.htm

登録方法

お客様の環境に応じて、登録方法を選択できます。

■方法1 -［東芝お客様登録］アイコンからのご登録方法

インターネットに接続後、登録用のホームページに簡単にアクセスできます。

■方法2 - インターネットからのご登録方法

インターネットに接続後、URLを入力して登録用のホームページにアクセスしていただきます。
登録用ホームページ：http://room1048.jp

商品の追加登録は「方法1」または「方法2」で行います。
ここでは、「方法1」を紹介します。

1 ［東芝お客様登録］アイコンからのご登録方法

インターネット接続の設定やインターネットプロバイダーとの契約をしてある場合に、［東芝お客様登録］アイコンからTID登録を行う方法を説明します。インターネットに接続しているあいだの通信料金やプロバイダー使用料などの費用はお客様負担となりますので、あらかじめご了承ください。

メモ

- インストールしているウイルスチェックソフトの設定によって、インターネット接続を確認する画面が表示される場合があります。インターネット接続を許可する項目を選択し、操作を進めてください。
- 初めて「Internet Explorer」を起動したときは、「iGoogle」の設定画面が表示される場合があります。画面に従って操作してください。

1 デスクトップ上の［東芝お客様登録］アイコン（ ）をダブルクリックする

［「お客様登録」のお願い］画面が表示されます。
以降は、画面の指示に従って操作してください。

付録

4 技術基準適合について

■瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人　電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピューターの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

■高調波対策について

JIS C 61000-3-2 適合品

本装置は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

■電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

参照 「6章 2-4 -Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい」

■FCC information

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's external monitor ports, Universal Serial Bus (USB 2.0) ports, and microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules.
Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697
Telephone : (949) 583-3000

■EU Declaration of Conformityについて

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe GmbH, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany. The complete and official EU Declaration of Conformity can be found on TOSHIBA's web site
http://epps.toshiba-teg.com on the Internet.

CE compliance

This product is labelled with the CE Mark in accordance with the related European Directives, notably Electromagnetic Compatibility Directive 2004/108/EC for the notebook and the electronic accessories including the supplied power adapter, the Radio Equipment and Telecommunications Terminal Equipment Directive 1999/5/EC in case of implemented telecommunication accessories and the Low Voltage Directive 2006/95/EC for the supplied power adapter. Furthermore the product complies with the Ecodesign Directive 2009/125/EC (ErP) and its related implementing measures.

This product and the original options are designed to observe the related EMC (Electromagnetic Compatibility) and safety standards. However, TOSHIBA cannot guarantee that this product still observes these EMC standards if options or cables not produced by TOSHIBA are connected or implemented. In this case the persons who have connected/implemented those options/cables have to provide assurance that the system (PC plus options/cables) still fulfils the required standards. To avoid general EMC problems, the following guidance should be noted:

■ Only CE marked options should be connected/implemented
■ Only best shielded cables should be connected

Working environment

This product was designed to fulfil the EMC (Electromagnetic Compatibility) requirements to be observed for so-called “Residential, commercial and light industry environments”. TOSHIBA do not approve the use of this product in working environments other than the above mentioned “Residential, commercial and light industry environments”.
For example, the following environments are not approved:

■ Industrial Environments (e.g. environments where a mains voltage of 380 V three-phase is used)
■ Medical Environments
■ Automotive Environments
■ Aircraft Environments

Any consequences resulting from the use of this product in working environments that are not approved are not the responsibility of TOSHIBA.
The consequences of the use of this product in non-approved working environments may be:

■ Interference with other devices or machines in the near surrounding area.
■ Malfunction of, or data loss from, this product caused by disturbances generated by other devices or machines in the near surrounding area.

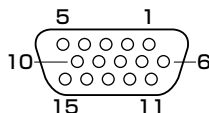
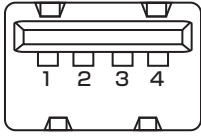
Therefore TOSHIBA strongly recommend that the electromagnetic compatibility of this product should be suitably tested in all non-approved working environments before use. In the case of automobiles or aircraft, the manufacturer or airline respectively should be asked for permission before use of this product.

Furthermore, for general safety reasons, the use of this product in environments with explosive atmospheres is not permitted.

5 各インターフェースの仕様

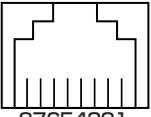
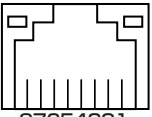
1 RGBインターフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	O
2	CGV	緑色ビデオ信号	O
3	CBV	青色ビデオ信号	O
4	Reserved	予約	
5	GND	信号グランド	
6	GND	信号グランド	
7	GND	信号グランド	
8	GND	信号グランド	
9	+5V	電源	
10	GND	信号グランド	
11	Reserved	予約	
12	SDA	SDA通信信号	I/O
13	-CHSYNC	水平同期信号	O
14	-CVSYNC	垂直同期信号	O
15	SCL	SCLデータクロック信号	I/O

コネクタ図

高密度D-SUB 3列15ピンメス

信号名　　　　：ーがついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

付録

2 USBインターフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	VBUS	＋5V	
2	D-	マイナスデータ	I/O
3	D+	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グランド	
コネクタ図			

信号名　　　　：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

3 LANインターフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	TX	送信データ（+）	O
2	-TX	送信データ（－）	O
3	RX	受信データ（+）	I
4	Unused	未使用	
5	Unused	未使用	
6	-RX	受信データ（－）	I
7	Unused	未使用	
8	Unused	未使用	
コネクタ図			

■ UX/2＊シリーズの場合

■ UX/1＊シリーズの場合

信号名　　　　：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

6 無線LANについて

1 無線LANの概要

本製品には、IEEE802.11a、IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11nのすべて、もしくはその一部に準拠した無線LANモジュールが内蔵されています。次の機能をサポートしています。

- 周波数チャネル選択
- マルチチャネル間のローミング
- パワーマネージメント

本書では、内蔵された無線LANモジュールの種類によって説明が異なる項目があります。
使用しているパソコンに内蔵された無線LANモジュールの種類については、
「2章 1-3-1 無線LANモジュールの確認」をご覧ください。

2 無線特性

無線LANの無線特性は、製品を購入した国／地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。
多くの場合、無線通信は使用する国／地域の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない5GHz帯および2.4GHz帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

無線周波数帯	IEEE802.11a, IEEE802.11n	5GHz（5150-5350MHz、および 5470-5725MHz）
	IEEE802.11b, IEEE802.11g, IEEE802.11n	2.4GHz（2400-2483MHz）
変調方式	IEEE802.11a, IEEE802.11g	直交周波数分割多重方式 OFDM-BPSK, OFDM-QPSK, OFDM-16QAM, OFDM-64QAM
	IEEE802.11b	直接拡散方式 DSSS-CCK, DSSS-DQPSK, DSSS-DBPSK
	IEEE802.11n	直交周波数分割多重方式（OFDM方式）， 空間多重方式（MIMO方式）

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る"障害物"がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

3 サポートする周波数帯域

無線LANがサポートする5GHz帯および2.4GHz帯のチャネルは、国／地域で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線IEEE802.11 チャネルセット」参照）。

■無線IEEE802.11 チャネルセット

- 5GHz帯：5150-5350MHz および、5470-5725MHz
  （IEEE802.11a、IEEE802.11nの場合）

メモ

- 5GHz帯無線LANは電波法令により屋外で使用することはできません。

	チャネルID	周波数
W52	36	5180
	40	5200
	44	5220
	48	5240
W53	52	5260
	56	5280
	60	5300
	64	5320
W56	100	5500
	104	5520
	108	5540
	112	5560
	116	5580
	120	5600
	124	5620
	128	5640
	132	5660
	136	5680
	140	5700

アクセスポイント側のチャネル（W52/W53/W56）に合わせて、そのチャネルに自動的に設定されます。

● 2.4GHz帯：2400～2483MHz（IEEE802.11b/g、IEEE802.11nの場合）

チャネルID	周波数
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457＊1
11	2462
12	2467
13	2472

＊1 購入時に、アドホックモード接続時に使用するチャネルとして設定されているチャネルです。

4 本製品を日本でお使いの場合のご注意

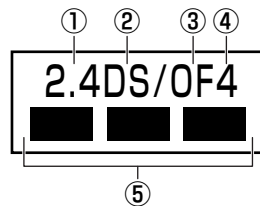
日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。
5GHz帯無線LANは電波法令により屋外で使用することはできません。

■ステッカー

本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に付属されている次のステッカーをパソコン本体に貼り付けてください。

この機器の使用周波数帯は 2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用 の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア 無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。
1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCあんしんサポートへお問い合わせください。

■現品表示

本製品には、次に示す現品表示が記載されています。

① 2.4　：2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
② DS　：変調方式がDS-SS方式であることを示す。
③ OF　：変調方式がOFDM方式であることを示す。
④ 4　：想定される与干渉距離が40m以下であることを示す。
⑤ ■■■　：2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

付録

■JEITAロゴ表記について

IEEE802.11b/g			
IEEE802.11a			
J52	W52	W53	W56

5GHz帯無線LANは、W52/W53/W56チャネルをサポートしています。

■東芝PCあんしんサポート

東芝PCあんしんサポートの連絡先は、『取扱説明書』の巻末を参照してください。

5 機器認証表示について

本製品には、電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、認証を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

■Intel a/b/g/n-WiMAX モジュールの場合

無線設備名 ：622ANXHMW
株式会社　ディーエスピーリサーチ
認証番号　 ：D090856003

■Atheros b/g/n モジュールの場合

無線設備名 ：AR5B95
株式会社　ディーエスピーリサーチ
認証番号　 ：D081038003

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピューター）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備をほかの機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触するおそれがありますので、十分にご注意ください。

6 お知らせ

無線製品の相互運用性

本製品に内蔵されている無線LANモジュールは、Direct Sequence Spread Spectrum（DSSS）／Orthogonal Frequency Division Multiplexing（OFDM）無線技術を使用するあらゆる無線LAN製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers（米国電気電子技術者協会）策定のIEEE802.11 Standard on Wireless LANs（Revision a/b/g/n）（無線LAN標準規格（版数 a/b/g/n））
- Wi-Fi Allianceの定義するWireless Fidelity（Wi-Fi）認証
  Wi-Fi CERTIFIEDロゴはWi-Fi Allianceの認定マークです。

健康への影響

本製品に内蔵されている無線LANモジュールは、ほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。
本製品に内蔵されている無線LANモジュールの動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。
ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者がWireless LANの使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中でWireless LAN装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN装置の電源を入れる前に、個々の組織または施設環境の管理者に対して、本製品の使用可否について確認してください。

規制に関する情報

本製品に内蔵されている無線LANモジュールのインストールと使用に際しては、必ず製品付属の取扱説明書に記載されている製造元の指示に従ってください。本製品は、無線周波基準と安全基準に準拠しています。

● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.
Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference , and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device.
The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

● USA - Federal Communications Commission (FCC)

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy. If not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation.
If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by tuning the equipment off and on, the user is encouraged to try and correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and the receiver.
- Connect the equipment to outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this the Wireless LAN, or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.
The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.

The radiated output power of the Wireless LAN is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Wireless LAN shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized.
In the usual operating configuration, the distance between the antenna and the user should not be less than 20cm. Please refer to the PC user's manual for the details regarding antenna location.
The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada's website
www.hc-sc.gc.ca/

● Europe

Restrictions for Use of 2.4GHz Frequencies in European Community Countries

België/ Belgique:	For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m. For registration and license please contact IBPT/BIPT.
	Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke groud over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig. Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT.
	Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de I'IBPT est requise. Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter I'IBPT.
Deutschland:	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow.
	Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.

France:	Restricted frequency band: only channels 1 to 7 (2400 MHz and 2454 MHz respectively) may be used outdoors in France.
	Bande de fréquence restreinte : seuls les canaux 1-7 (2400 et 2454 MHz respectivement) doivent être utilisés endroits extérieur en France. Vous pouvez contacter I'Autorité de Régulation des Télécommuniations (http://www.art-telecom.fr) pour la procédure à suivre.
Italia:	License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed.
	E'necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno. Verificare con i rivenditori la procedura da seguire.
Nederland	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow.
	Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure.

To remain in conformance with European spectrum usage laws for Wireless LAN operation, the above 2.4GHz channel limitations apply for outdoor usage. The user should use the Wireless LAN utility to check the current channel of operation. If operation is occurring outside of the allowable frequencies for outdoor use, as listed above, the user must contact the applicable national spectrum regulator to request a license for outdoor operation.

●Taiwan

Article 12
Without permission granted by the DGT or NCC, any company, enterprise, or user is not allowed to change frequency, enhance transmitting power or alter original characteristic as well as performance to an approved low power radio-frequency devices.
Article 14
The low power radio-frequency devices shall not influence aircraft security and interfere legal communications;
If found, the user shall cease operating immediately until no interference is achieved.
The said legal communications means radio communications is operated in compliance with the Telecommunications Act.
The low power radio-frequency devices must be susceptible with the interference from legal communications or ISM radio wave radiated devices.

7 使用できる国／地域について

お願い

- 本製品は、次にあげる国／地域の無線規格を取得しております。これらの国／地域以外では使用できません。

■Intel a/b/g/n-WiMAX モジュール

日本

（2010年4月現在）

- 無線LANとWiMAXは同時に使用できません。
- 802.11aおよび802.11n モードではアドホック通信は使用できません。
- アドホック通信でのピアツーピア接続は、Ch1～Ch11で使用できます。
- インフラストラクチャ通信でのアクセスポイントへの接続は、Ch1～Ch13, Ch36, Ch40, Ch44, Ch48, Ch52, Ch56, Ch60, Ch64, Ch100, Ch104, Ch108, Ch112, Ch116, Ch120, Ch124, Ch128, Ch132, Ch136, Ch140で使用できます。

付録

■Atheros b/g/n モジュール

アイスランド	オーストリア	シンガポール	ニュージーランド	ボリビア
アイルランド	オマーン	ジンバブエ	ノルウェー	ポルトガル
アゼルバイジャン	オランダ	スイス	バーレーン	香港
アメリカ合衆国	ガーナ	スウェーデン	パキスタン	マケドニア
アラブ首長国連邦	カザフスタン	スペイン	パナマ	マルタ
アルゼンチン	カタール	スリランカ	パプアニューギニア	マレーシア
アルバニア	カナダ	スロバキア	パラグアイ	南アフリカ
イエメン	韓国	スロベニア	ハンガリー	メキシコ
イギリス	カンボジア	セルビア	フィリピン	モナコ
イタリア	キプロス	タイ	フィンランド	モンテネグロ
インド	ギリシャ	台湾	プエルトリコ	ヨルダン
インドネシア	キルギスタン	チェコ	フランス	ラトビア
ウクライナ	グアテマラ	中国	ブルガリア	リトアニア
ウルグアイ	クウェート	チリ	ベトナム	リヒテンシュタイン
エクアドル	クロアチア	デンマーク	ベネズエラ	ルクセンブルク
エジプト	ケニア	ドイツ	ペルー	ルーマニア
エストニア	コスタリカ	ドミニカ	ベルギー	レバノン
エルサルバドル	コロンビア	トルコ	ポーランド	
オーストラリア	サウジアラビア	日本	ボスニア・ヘルツェゴビナ	

（2010年4月現在）

- 802.11nモードではアドホック通信は使用できません。
- アドホック通信でのピアツーピア接続は、Ch1～Ch11で使用できます。
- インフラストラクチャ通信は、Ch1～Ch13で使用できます。

付録